

令和元年度指定
地域との協働による高等学校教育改革推進事業
(プロフェッショナル型) 報告書
第3年次

生活文化の伝承と多世代交流
－共生のまちづくりに貢献する人材の育成－



令和4年3月
愛媛県立小松高等学校

本報告書は、文部科学省の委託事業として、愛媛県立小松高等学校が実施した地域との協働による高等学校教育改革推進事業（プロフェッショナル型）の成果を取りまとめたものです。

したがって、本報告書の複製、連載、引用等には文部科学省の承認手続きが必要です。

はじめに

文部科学省指定の地域との協働による高等学校教育改革推進事業(プロフェッショナル型)は、3年間の研究開発を終え、ここに最終年度の報告書をまとめることができました。本事業の実施に当たり、コンソーシアム検討会議の皆様、運営指導委員の皆様、関係企業の皆様、地域の皆様、また、文部科学省、愛媛県教育委員会の皆様に多大なる御支援・御助言を賜り、研究成果を収められましたことを深く感謝申し上げます。

本校では、「生活文化の伝承と多世代交流 共生のまちづくりに貢献する人材の育成」を研究テーマとし、生活文化・生活産業の振興、多世代交流による地域コミュニティの活性化など地域と協働して行う地域課題解決学習を通して、必要な専門的知識・技術、課題発見力・課題解決力、マネジメント力、コミュニケーション力、発想力・企画力・実践力、発表し表現する力を身に付け、地域に貢献する人材の育成を目指しました。

今年度の地域課題解決学習は、1年次「知り、課題を考える」2年次「研究し、課題解決を図る」から「地域の生活産業・生活文化を広め、地域に貢献する」段階に入りました。3年生は企業との特産品を活用した商品開発、小松婦人会との「海の恵みの魚食弁当」の開発、就労支援事業所との樺水引細工を利用した祝儀袋の製作交流等に取り組みました。12月に開催された小松地域未来塾では、小松婦人会とともに調理した魚食弁当150食を提供、地元食材の魅力を発表したほか、樺文化の普及活動を行いました。会場は幼児から高齢者まで60名の方の笑顔があふれ、久々に地域が賑わう楽しい交流の場となりました。学校だけでは、地域だけではできないことが協働することにより可能となり、人と人とのつながりが生まれ、地域活性化を推進する契機になっています。

3年間の研究は、課題はありますが、アンケートの分析や生徒の感想などから当初のねらいは概ね達成できたのではないかと考えています。ある生徒が「最初は学校で無理やりやらされている感覚があったけど、多くの人と関わり、様々な分野の知識を得られ、自分自身成長できました。(中略)コミュニケーション能力や課題解決力、臨機応変に対応する力など、本当にたくさんを学び、身に付けられました。」と書いています。初めは教員主導でも、人と関わり喜んでもらう体験を重ねることで、自己有用感や郷土愛、自信を高め、それを原動力に主体的に活動する生徒、人前で堂々と意見を発表できるようになった生徒が多くいます。それらの生徒が、地域での学び等から今後の生き方を深く考え、明確なビジョンを持って進路決定できたことは大きな収穫です。将来にわたり、地域に貢献する姿勢を持ち続け、それぞれのフィールドで活躍してくれるものと期待をしています。

本事業の実施に当たり、校内で一層の協働体制を構築するため、研究2年目には、「地域」「協働」「改革」を学校全体の課題として全教職員でロジックモデルを共有し、各教科の努力目標・計画の中に地域協働の学習を組み入れました。普通科にも地域での古民家再生活動等に参画する生徒がでてくるなど地域と協働した学びの実践が広がりつつあります。研究の真価は、今後の教育活動に問われると自覚しています。今後も、教職員一丸となって、課題を解決しながら、地域と協働した探究的な学びを充実させ、地域に貢献する人材の育成に努めるとともに、本校が今以上に地域とともに歩む学校として地域から必要とされる存在となれるよう邁進してまいります。

厳しいコロナ禍にあっても様々な企業・団体等とのつながりに恵まれ、地域の人々にもあたたかく研究の後押しをしていただきました。関わってくださった全ての皆様に心から感謝申し上げます。

令和4年3月

校長 松浦 ヨリ子

目 次

巻頭言

目次

活動概略図

活動写真

I	研究概要	1
1	研究開発名	
2	研究開発の概要	
3	研究の目的と三つのテーマ	
4	研究組織の概要	
5	本年度の実施計画	
6	事業実施体制	
7	課題項目別実施期間	
8	学習成果と評価項目（ルーブリック）	
II	研究内容	8
II-I	地域課題の発見・解決方法の研究	
1	研究の概要	
2	研究の内容	
(1)	伝統産業視察	
(2)～(3)	県内研修	
(4)～(6)	県外研修	
II-II	伝統文化・地域特産品の研究	16
1	研究の概要	
2	研究の内容	
(1)	魚食文化研究	
(2)	椿文化研究	
(3)	はだか麦研究	
(4)	商品開発に向けて	
II-III	多世代交流・普及活動の実施	34
1	研究の概要	
2	研究の内容	
(1)～(6)	まちかど家庭科室～ふらっと～	
II-IV	研究成果の発表・発信	43
1	第9回高校生ビジネスプラン・グランプリ	
2	ふるさとCM大賞えひめ	
3	活動の発信と発表	
4	小松小学校教職員研修会	
5	第31回全国産業教育フェア埼玉大会（リモート開催）	
6	令和3年度「えひめスーパーハイスクールコンソーシアム in 東予」（オンライン）	
7	商品開発による成果	
8	成果報告会	
9	ホームページ一覧	
III	研究の成果と今後の方向性	58
1	研究の成果と評価	
2	今後の方向性	
IV	運営指導委員会記録	64
V	関係資料	67
1	令和3年度教育課程表	
2	令和2年度実施報告概要	

生活文化の伝承と多世代交流
共生のまちづくりに貢献する人材の育成



地域との協働による地域課題研究を通じた人材育成プログラム

コンソーシアム

行政

小松高校
[ライフデザイン科で育成する力]

スペシャリストに必要な専門知識・技術
地域の課題解決力
地域の課題解決のためのマネジメント力
人と関わる力・コミュニケーション能力
商品開発を通じた発想力・企画力・実践力

学校(大学等)

愛媛県内企業

- ・生活産業や生活文化の継承
- ・地域産業を担う人材育成
- ・地域コミュニティの再構築

地域の生活産業・生活文化

はだか麦
×
特産品

椿文化

魚食文化

まちかど家庭科室～ふらっと～

地域に根差し、共生のまちづくりに貢献できる人材

新たな価値を創造し、主体的に行動する力

3年次
地域の生活産業・生活文化
を**広め、地域に貢献する**

- はだか麦・魚を使用したオリジナルレシピの提案と商品開発
- 椿油・椿花・椿実を使用した新たな特産品の提案と制作活動
- 地元産直市やアンテナショップでの販売活動
- HPやSNS等による情報発信で県内外への普及活動
- まちかど家庭科室～ふらっと～開催による地域コミュニティの再構築

確かな知識と技術を持ち、他者と協働して地域に貢献する人材

小松つばき会、愛媛大学、市内漁協、西条市と協働

2年次
地域の生活産業・生活文化
を**研究し、課題解決を図る**

- 椿・伝統的魚食文化・はだか麦×特産品の研究
- 食のコンクールへの挑戦やインターンシップの実施
- 産官学連携による商品開発・オリジナルレシピの開発
- 日本を代表する伝統工芸研修
- まちかど家庭科室～ふらっと～開催による地域コミュニティの再構築

地域資源の産業化・商品化へつなげる技術力、企画力、実践力を持つ人材

1年次
地域の生活産業・生活文化
を**知り、課題を考える**

- 地場産業見学（椿ハウス、魚市場、手すき和紙等）
- SDGsと地域課題について学習
- 地域人材を活用した実践的学習活動
- 異年齢者との交流による地域コミュニティ参加
- タブレットを活用した調べ学習や協働学習
- まちかど家庭科室～ふらっと～開催

学校設定科目「ライフデザイン」、科目「課題研究」で実施 SNS等による発信

地域の伝統産業・伝統文化に興味・関心を持ち、他者と情報を共有して地域の魅力を創出できる人材



活動写真



「海の恵みの魚食弁当」開発



にぎたつ会館とのコラボ弁当



学校給食メニュー開発



講義「椿の水引細工」



椿の水引細工体験



椿の御祝儀袋



椿の消しゴム判子体験



椿の水引封筒



椿のコサージュ



椿の染色



講義「商品開発」



椿カレンダー制作



椿のステンシルポロシャツ



クリーニングバッグデザイン



商品開発試作品



椿のクッキー作り



椿のロゴ入りクリアファイル



まちかど家庭科室～ふらっと～

I 研究概要

1 研究開発名

令和元年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 プロフェッショナル型 (第3年次)
「生活文化の伝承と多世代交流―共生のまちづくりに貢献する人材の育成―」

2 研究開発の概要

(1) 地域課題研究を各科目に位置付け、体系的・系統的に学習するカリキュラムの研究

(2) 学習指導方法の研究

1年次 地域の生活産業・生活文化を知り、課題を考える。

2年次 地域の生活産業・生活文化、多世代交流、共生のまちづくりを研究し、課題解決を図る。

3年次 地域の生活産業・生活文化を広め、多世代交流、共生のまちづくりに取り組み、地域に貢献する。

※ 本年度は3年次の内容を実施する。

(3) 地域課題研究の評価方法の研究

(4) コンソーシアムとの連携の在り方についての研究

3 研究の目的と三つのテーマ

(1) 研究の目的

本校が位置する愛媛県西条市は、海と平野と山がそろった自然環境豊かな都市であり、四国有数の工業都市として、また、四国最大の経営耕地面積を誇る農業都市として発展してきた。しかしながら、近年地域経済の衰退による都市部への人口流出や少子高齢化が加速しており、地域コミュニティにも深刻な影響を及ぼしている。人口減少の克服、地域経済の発展、活力ある地域コミュニティの再構築などの課題が山積している。

そのような中、本校ライフデザイン科は、県立高校唯一の家庭に関する専門学科として、専門教科「家庭」を幅広く学び、将来地域社会に貢献できる生徒の育成を目指している。2年次からは、二つのコースに分かれ、ライフデザインコースでは、ライフステージにおける家族・家庭、衣・食・住などの生活課題を専門的に学習し、生活関連産業に従事できる能力を養うこと、ヒューマンサービスコースでは、高齢者の福祉と乳幼児の保育に関する専門的な知識と技術を習得し、少子・高齢社会の福祉ニーズを支える人材を育成することを目標としている。

平成27年度には、県教育委員会から指定を受けて、「地域の担い手育成のための専門科目における指導法の研究」として、「地域のスペシャリストとして、他者と協働しながら地域に根差す生徒を育てる効果的な指導方法を整理・研究し、地域と共に育つ意識を持った生徒を育てる」という目標を掲げ、研究に取り組んだ。実施後も、家庭科専門科目だけにとどまらず、学校教育全般にわたって教育活動における実践を継続している。

本研究では、こうしたこれまでの研究を発展させ、少子高齢化や人口減少が進展する中、持続可能な社会の構築に向け、課題意識を持ち、生涯にわたって様々な人と協働しながら、地域課題の解決を目指して主体的に行動し、生活文化の継承、生活産業の振興や多世代交流、共生のまちづくりに貢献

する地域人材の育成を目的とする。

地域人材に必要な力は以下のとおりと考える。

○地域で活躍する人材として必要な専門的知識・技術

○地域の課題発見力・課題解決力

○地域の課題解決のためのマネジメント力

○他者と協働し学びを深めるコミュニケーション能力

○商品開発を通じた発想力・企画力・実践力

○地域課題研究の成果をまとめ、発表する表現力

そして、育成を目指している生徒は次のとおりである。

○地域の産業に従事し、生涯にわたって地域に貢献したいと考える生徒

○地域課題を踏まえ、共生のまちづくりのパートナーとして高度な知識技能を身に付けようとする生徒

○多様な立場の人や機関と進んで関係を構築する生徒

以上のような生徒を、コンソーシアムなどと協働して取り組む地域課題研究を通して育成したい。

そのため、本研究では、地域課題研究を「課題研究」だけでなく専門教科「家庭」の他の科目や「福祉」の各科目に位置付け、体系的・系統的に学習するカリキュラムや学習指導法、地域課題研究の評価方法の研究、コンソーシアムとの連携の在り方について研究する。

(2) 取り組みたいテーマ

持続可能な社会の構築に向けた視点から、地域と協働しながら課題解決に取り組みたいテーマを次の3点に設定した。

ア 「椿の香りと文化」のまちづくりの活性化

本校が位置する西条市小松町は、小松藩一柳家一万石が幕末までこの地を治めていた。儒学者で伊予聖人といわれた近藤篤山を招いて藩校「養正館」を設置するなど、教育や文化を重視した地域である。近藤篤山が「椿」を好んでおり、町民は椿を育てることで師の教えを受け継いできた。前身である小松町立実用女学校は藩校「養正館」の跡地に建てられ、師の教えは校是となり現在に伝えられ、庭園には椿が植えられている。西条市では、「椿の香りと文化」をまちづくりの中心に据え、観光PRと椿普及、高齢者の生きがいをいづくりに努めたが、「椿」の栽培は一部の愛好家にとどまり、市内・県内へのPRも不十分であった。このような反省を踏まえ、従来の価値にとどまらず、地域資源の多角化を研究し、新たな価値を付加した地域の特産品を開発してブランド化すること、それを適切に情報発信し、地域の活性化につなげることが必要である。

イ 生活文化・生活産業の振興

西条市には豊かな自然を生かし、はだか麦、ほうれん草、絹かわなす、七草など優れた農産品が数多くある。水産業においては、盛んなのり養殖のほか、ワタリガニ、シャコ、サワラ、エビ等の西条ブランドがある。しかし、全国的に見るとこれらの知名度は低い。地域に根付く魚食文化も失われつつあり、地域が誇る貴重な資源や食文化の価値は若い世代にうまく伝わらず、その継承も行われていない。

これらの生活産業や生活文化の振興のためには、地域産業や行政、地域の高校と連携した学びを基に、地域資源や伝統文化の価値を知り、新たなレシピや加工品を開発して普及することで、地域

への誇りや愛着心を醸成し、使命感を持って全国に西条ブランドを広め、地域の魅力化・活性化に仲間と共に寄与する人材を育てなければならない。

ウ 地域コミュニティの活性化

西条市において、高齢化率は平成 27 年度で 30%を超え、高齢者のいる世帯は一般世帯の 48.2%、そのうち、高齢者一人暮らし世帯及び高齢者夫婦のみの世帯が 69.1%を占めている。地域における人間関係の希薄化による相互扶助機能の低下は、西条市においても懸念されており、互いに支え合う地域コミュニティの構築が求められている。地域に住む高校生として、子育て支援や高齢者の生きがいづくりに参画し、互いに学び合う「まちかど家庭科室～ふらっと～」を企画し、地域の小・中学校などと協働して、コミュニティの活性化を図る。実施してきたこれまでの交流に加え、生徒が企画から準備、運営までを主体で行う過程で、マネジメント力やコミュニケーション力を身に付け、人口減少や核家族化等により薄れつつある地域コミュニティの再構築に貢献できる人材を育成したい。また、生涯を見通した自己の生活について、将来の生活に向かって目標を立て、展望をもって生活することの重要性を認識させ、3年間の学びを経て地域の産業スペシャリストとして従事する自分の姿や、そのライフスタイルを実現するための生活設計力を育んでいきたい。

4 研究組織の概要

(1) コンソーシアムについて

ア コンソーシアムの構成団体

機関名	機関の代表者名	
愛媛大学地域協働センター西条	センター長	羽藤 堅治
日本つばき協会支部 愛媛・小松つばき会	会長	佐伯 隆
株式会社 マルブン	社長	眞鍋 明
株式会社D e c o	代表	處 淳子
西条市立小松小学校	校長	藤原 正三
西条市立小松中学校	校長	岡田 光
西条市小松総合支所	所長	高橋 壮典
西条市小松子育て支援センター	所長	古宅 成美
西条市小松公民館	館長	曾我部米治
愛媛県農林水産部漁政課	課長	橋田 直久
愛媛県教育委員会高校教育課	課長	島瀬 省吾
愛媛県立小松高等学校	校長	松浦 ヨリ子

イ 活動日程・活動内容

令和 3 年 6 月 25 日に第 1 回コンソーシアム検討会議を行い、本事業の概要を説明し、今年度の事業内容を決定した。令和 4 年 2 月 24 日に第 2 回コンソーシアム検討会議を行い、本年度の研究内容・研究成果と今後の課題を報告した。

(2) カリキュラム開発等専門家について

元高等学校家庭科教員藤岡英子氏を非常勤講師として雇用した。

(3) 地域協働学習実施支援員について

株式会社D e c o 代表處淳子氏を非常勤職員として雇用した。

(4) 運営指導委員会について

ア 運営指導委員会の構成員

氏名	所属・職	備考
羽藤 堅治	愛媛大学地域協働センター西条・センター長	学校教育に専門的知識を有する者
藤田 昌子	愛媛大学教育学部・教授（愛媛県家庭科研究会）（会長）	学校教育に専門的知識を有する者
眞鍋 明	株式会社マルブン・社長	学識経験者
高橋 壮典	西条市小松総合支所・所長	関係行政機関の職員
曾我部米治	西条市小松公民館・館長	関係行政機関の職員
久保 浩治	愛媛県立西条農業高等学校・校長	学校教育に専門的知識を有する者

イ 活動日程・活動内容

令和3年6月25日に第1回運営指導委員会を行い、本事業の内容の説明に基づいて運営指導を受けた。令和4年2月24日に第2回運営指導委員会を行い、本年度の研究内容・研究成果と今後の課題を報告し、運営指導を受けた。

(5) 研究推進委員会

ア 校内推進体制の構築

本校の重点努力目標が「学びをつなぐ 思考力、問題発見・解決能力の育成」であり、その副題を「一伝統を継承し、地域と共に歩む」として、地域協働については、学校全体で取り組むものと意識を明確にした。カリキュラム・マネジメントを推進するためのPDCAサイクルを確立するために、校内においては、管理職、家庭科教員の他に、総合的な探究の時間担当教諭、進路担当教諭、教務担当教諭、生徒担当教諭、総務担当教諭が連携を図っている。

イ 運営指導委員会の構成

組 織	教師及び支援員	役割専門分野
	校 長	事業総括責任者
研究推進統括	教頭	運営指導委員会・コンソーシアム運営・記録・広報
経 理 担 当	事務長 専門員 主事	備品・需用費・旅費
研究推進委員長	家庭科主任	企画総括・研究推進
研究推進委員会	文部科学省事業主幹	研究推進
	総合的な探究の時間担当教諭	探究活動推進リーダー
	進路課長、教務課長、生徒課長、総務厚生課長	委員
	地域協働学習実施支援員	地域協働学習実施・外部との連携調整・多世代交流実施・広報・運営・指導助言
	カリキュラム開発等専門家	カリキュラム開発・SDGs学習・地域理解学習・資料提供・指導助言
	家庭科教員	企画研究・記録・広報

5 本年度の実施計画

地域の生活産業・生活文化を広め、多世代交流、共生のまちづくりに取り組み、地域に貢献する。

- (1) 「生活産業基礎」「フードデザイン」「家庭総合」〔SDGsに関する学習、地域理解学習、課題発見と課題解決学習〕（1年生）

取組内容	・調査・研究・実践の効果的な実施～ガイダンス～ ・地域の課題の発見と解決プランの立案 ・地域に根差す生活産業が直面する課題
実施時期	令和3年4月～令和4年3月
協力機関等	株式会社Deco代表 處 淳子

- (2) 「課題研究」「フードデザイン」「ライフデザイン」〔はだか麦・魚を使用したオリジナルレシピの提案と商品開発、椿を使用した特産品開発・普及〕（2・3年生）

取組内容	・調査・研究・実践の効果的な実施～課題研究ガイダンス～ ・地域の課題の発見と解決プランの立案 ・地域に根差す生活産業が直面する課題
実施時期	令和3年4月～令和4年3月
協力機関等	株式会社Deco代表 處 淳子、小松つばき会、西条市、地域の飲食店等

- (3) 外部講師による講義・演習〔生活文化(椿文化・魚食文化)、地域特産品〕（1・2・3年生）

取組内容	① 椿と小松～歴史を紐解く～ ② 瀬戸内の多様な魚食文化 ③ 魚を使った料理教室 ④ はだか麦を使った料理教室 ⑤ 商品開発に向けて
実施時期	令和3年4月～令和4年3月
協力機関等	① 小松つばき会 ②③ 愛媛県農林水産部漁政課、漁業女性部 ④ 愛媛県東予地方局産業経済部 ③④⑤ 地域の飲食店

- (4) 校外研修

取組内容	① 地域の伝統産業視察（1年生） ② まちづくり・多世代交流先進地視察（1・2・3年） ③ 商品販売に向けてのショップ見学（2・3年）
実施時期	令和3年7月、9月、12月
研修場所	① 紙産業技術センター他 ② 1年生 タオル美術館 伊予桜井漆器会館 2年生 内子町、大洲市 3年生 伊予農業高校 他 ③ 西条市内店舗 他

- (5) 交流活動

取組内容	① まちかど家庭科室～ふらっと～の開催 ② 椿の庭園の整備 ③ 椿カレンダーの制作 ④ 他県における地域の協働活動実施校との情報交換 ⑤ 地域とのコラボによるイベントへの参加
------	--

実施時期	令和3年5月、7月、8月、9月、11月、12月 令和4年2月、3月
協力機関等	① 西条市小松公民館、地域の小学校・中学校等 ②③ 西条市小松総合支所、小松つばき会 ④ 他県における地域の協働活動実施校 ⑤ 地域の飲食店等

(6) 成果発表

取組内容	① 各種コンテストへの参加 (シーフード料理コンテスト、地産地消コンテスト等) ② 意見・成果発表 (えひめスーパーハイスクールコンソーシアム、市内小学校、校内等) ③ 活動の様子や動画を学校ホームページに掲載
実施時期	令和3年4月～令和4年3月

これらの取組において、生徒がタブレットを活用して、学習成果の共有や蓄積ができるeポートフォリオを作成し、教員がその成果を評価する、パフォーマンス評価の在り方を研究する。

(7) 運営指導委員会 [2回実施]

(8) 研究推進委員会 [月1回開催]

6 事業実施体制

課題項目	実施場所	事業担当責任者
「課題研究」「生活産業基礎」「フードデザイン」「家庭総合」「ライフデザイン」	本校	校長 松浦 ヨリ子
外部講師による講義・演習	本校	校長 松浦 ヨリ子
校外研修	西条市、松山市、四国中央市	校長 松浦 ヨリ子
交流活動	西条市内、今治市、新居浜市、松山市等	校長 松浦 ヨリ子
成果発表	本校、西条市、松山市他	校長 松浦 ヨリ子
地域との協働によるコンソーシアムの構築	本校、西条市、小松中学校、小松小学校、愛媛県教育委員会等	校長 松浦 ヨリ子

7 課題項目別実施期間

業務項目	実施期間 (契約日 ~ 令和4年3月31日)											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
「課題研究」「生活産業基礎」「フードデザイン」「家庭総合」「ライフデザイン」	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
外部講師による講義・演習		○	○		○	○	○	○	○		○	
校外研修				○				○	○			
交流活動		○					○	○	○		○	
意見・成果発表					○	○	○	○	○	○	○	○
地域との協働によるコンソーシアムの構築		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○

8 学習成果と評価項目 (ルーブリック)

学習成果		S (4)	A (3)	B (2)	C (1)
評価項目					
1	課題を発見する力	感じた疑問を <u>いろいろ</u> な立場や方向から考えを深め、新たな疑問を持つことができる。	感じた疑問を探究の過程にのっつて、 <u>論理的に</u> 考えることができる。	感じた疑問に対して仮説を立て、 <u>解決する方法</u> を考えることができる。	日常生活で「なぜ？」を感じることができる。
2	資料収集力	必要な情報・データを限られた時間の中で収集し、 <u>優先順位</u> を付けながら整理することができる。	必要な情報・データを限られた時間の中で収集し、 <u>整理</u> することができる。	必要な情報・データを <u>収集、整理</u> することができる。	テーマに関係するデータを収集することができる。
3	発表する力	資料やデータを適切に用い、内容を <u>工夫しながら自分の言葉</u> で分かりやすく発表することができる。	資料やデータを適切に用い、 <u>内容を自分の言葉</u> で発表することができる。	資料やデータを用い、内容を <u>原稿を見ながら</u> (ではあるが) <u>発表</u> することができる。	資料を用い、内容を発表することができる。
4	段取り力	<u>状況の変化</u> に対応して、 <u>目的を達成</u> するために、段取り良く物事を進めることができる。	より良い結果を出すために、 <u>段取り</u> よく物事を進めることができる。	より良い結果を出すために、どのような段取りで進めるべきなのかを <u>考える</u> ことができる。	物事や行動の結果を考える習慣を身に付けることができる。
5	協働する力	他者と関わりながら積極的に取り組み、 <u>聞く、話す</u> など有意義なコミュニケーションを図りながら協働することができる。	他者と関わりながら <u>主体的に</u> 取り組み、協働することができる。	他者と関わりながら <u>活動に</u> 取り組み、 <u>協働</u> することができる。	他者と関わりながら活動に取り組み、協働しようと努力することができる。

II 研究内容

II-I 地域課題の発見・解決方法の研究

1 研究の概要

活動日	活動内容	科目	場所
7月7日、11月17日	伝統産業視察	課外活動	今治市、四国中央市
12月15日	県内研修	課外活動	内子町
12月15日	県内研修	課外活動	大洲市
11月5、6日	県外研修	課外活動	高知県
12月11日	県外研修	課外活動	福岡県
12月11日	県外研修	課外活動	長崎県

2 研究の内容

(1) 伝統産業視察

ア 目的

地域との協働による高等学校教育改革推進事業の一環として、地域の伝統産業や生活産業について学び、視野を広げることで地域貢献について考える一助とする。

イ 実施内容

(ア) タオル美術館

今治市朝倉にあるタオル美術館では、織機や捲糸機などのタオル製造用の機械を見学し、様々なタオル製品の工程を知ることができた(写真1)。また、全国的にも知名度の高い今治タオルの商品も数多く販売しており、織り方や肌触りの違いなども学ぶことができた。



写真1 製造工程の見学

(イ) 伊予桜井漆器会館

今治市の伊予桜井漆器会館では、桜井漆器の歴史の説明と多数の漆器商品の紹介を受けた。漆を塗ったり絵付けをしたりする作業工程を見学し、繊細な作業の様子を見ることができた(写真2)。



写真2 作業工程の見学

(ロ) 愛媛県産業技術研究所 紙産業技術センター

四国中央市にある紙産業技術センターでは、紙の歴史や紙産業の現状、原料や製品についての展示を見学した。紙産業についての歴史や、水引の作品を実際に見ることができ、知識を深めることができた(写真3)。また、水引を使ったストラップ作りを体験した。使用する水引は、たくさんの種類の中から各自が好きな色のものを選び、制作に取り組んだ(写真4)。



写真3 展示の見学



写真4 水引細工体験

(2) 県内研修 (内子町)

ア 目的

内子町の伝統産業や観光産業を知るとともに、伝統的な街並みを生かした街づくりを知ることで、地域資源を生かした工夫について学ぶ。

イ 実施内容 (写真5)

木蠟資料館 上芳我邸は、国内最大級規模の精蠟業者であった上芳我家の邸宅に、木蠟に関わる資料館が併設されている。贅を尽くした装飾や建具を自由に見学し、伝統的な建築や建具について、興味を持って見学していた。古いけど、丁寧に管理された建築物の良さを感じ、「住みたい」という生徒もいた。また、説明を聞き、大黒柱の太さやふすまなどの細かな装飾から、上芳我家が当時いかに豊かであったかをうかがうことができた。その後、木蠟資料館を見学し、木蠟生産の材料や、木蠟を使用した製品について学びを深めていた。実物見本が多く、楽しみながら学ぶことができた。その後、八日市・護国の街並みの散策を行った (写真6)。



写真5 木蠟資料館 上芳我邸

ウ 生徒の感想

- ・古民家とかをそのまま放っておくのではなく、カフェとかお土産屋さんとかにリメイクしてお客さんに来てもらって、遠くの人にも内子のいいところが伝わるように工夫されていたのがすごいと思った。西条にも空き家がいっぱいあると思うから何か活用できたらいいと思った。
- ・地域の人は買い物や交流に、遠くの方は街並みを見に来たり、カフェとか楽しんだりする場所が一つになっているところがいいと思いました。
- ・ずっと昔の建物を保存しておくだけでも大変だと思うけど、ただ置いてあるだけではなかなか人は集まらないと思うので、その点での工夫はすごいと思いました。西条、小松ももっと活性化させたいです。



写真6 八日市・護国の街並みの散策

(3) 県内研修 (大洲市)

ア 目的

大洲市でものづくりやダイレクトトレードを行う方から話を聞き、自分たちの生活が世界につながっていることを知るとともに、SDGsやものづくりの魅力について学ぶ。

イ 実施内容

大洲市五郎にあるカトラッチャ珈琲焙煎所では、店内の見学やコーヒー豆のブレンド体験、コーヒーを淹れる体験をした(写真7)。店内で販売しているコーヒー豆は、店主の今井絵里氏が、青年海外協力隊として滞在したホンジュラスで出会ったコーヒー農家の方と、直接取引を行っているとのことであった。生産者と直接取引を行うダイレクトトレードは身近に生産者を感じ、生産者により多くのお金が入る仕組みになっており、公正な貿易につながる。生徒の中には「コーヒー豆の商品名が人の名前なのが面白い」「農家の人たちが助かる仕組みを実現しているのがすごい」「コーヒーを買うことで生産者さんを応援している気持ちになる」と話す者もあり、自分たちの消費生活が世界につながっていることに気付き、身近なSDGsの取組について考える機会となった。



写真7 見学・体験の様子

手作りの服を販売するSa-rahでは、店主の帽子千秋氏より洋服づくりを始めたきっかけや、洋服のデザインを考えるときのポイントなどを話していただいた(写真8)。その洋服を着る人が心地よいデザインと素材にこだわっていると知り、生徒も感動しているようだった。生徒たちは楽しく話をしながら、SDGsやものづくりの魅力について知ることができた。



写真8 見学の様子

ウ 生徒の感想

- SDGsのことや地域のことを考えて、お店をされていてすごいと思いました。母のためのオリジナルコーヒーをブレンドさせてもらうことができ、嬉しかったです。
- Sa-rahで販売されている服は、初めて着るときから着心地がいいように洗濯されていると聞きました。着る人のことを考えて服を作っていると知って、すごいと思いました。
- コロナ禍にも負けずに、いろいろな工夫をしてお店を営業されているところに感動した。地域のイベントでも出品をしていると聞いたので、是非行ってみたい。

(4) 県外研修 (高知県)

ア 目的

高知県の伝統産業や観光産業、地域文化を知るとともに、それらの地域特産品を生かした商品と販売の工夫を知り、今後の商品開発に向けての参考にする。

イ 実施内容

(7) 土佐和紙工芸村「くらうど」

土佐の伝統産業である土佐和紙の紙すき体験を行った。紙すきの体験が、初めての生徒ばかりであったが、職員の方が丁寧に分かりやすく教えてくださり、スムーズに紙をすくことができた (写真9)。その後、自分の好きな草花を好きなだけ選び、大きさや色合いを考えながらピンセットを使って丁寧に配置していった (写真10)。乾燥させている間に、高知県産の様々な食品や加工品、工芸品等が販売されている様子を見て回った。工夫された加工品のパッケージや価格の設定等商品開発の参考になった。1時間程度の乾燥で、それぞれの個性を生かしたカラフルな草花入りのはがきがたくさん出来上がった (写真11)。



写真9 紙すきの様子



写真10 草花を配置



写真11 完成!!

(イ) 馬路村「ゆずの森」加工場

ゆずの里で知られる馬路村の「ゆずの森」加工場を見学した。ゆずがジュースに加工される工程や (写真12)、その他のゆずの加工品について (写真13)、職員の方から説明を受け、地域資源であるゆずを活用した村全体での地域活性化の取組について学んだ (写真14)。



写真12 工程の見学

写真13 加工品



写真14 説明の様子

(ウ) 生徒の感想

- ・紙すき体験は初めてだったが、結構簡単にできるんだと思った。
- ・水気を含んだドロドロのものが紙になったことに驚いた。
- ・草花を自分のセンスで置いていったが、仕上がりが思ったよりきれいで嬉しかった。何かあたたかみのようなものがあり、手作りのよさを感じた。
- ・馬路村ではいたるところでゆずが栽培されていて、村全体がゆずに囲まれているようだった。
- ・ゆずの加工品で、ジュースとぼん酢は知っていたが、それ以外にたくさんの加工品があることを初めて知った。特に化粧品があることに驚いた。
- ・「ゆず」という地元の特産品が生かされ、地域の活性化につながっていることがいいなと思った。私たちが「椿」や「はだか麦」や「魚」という地域資源を生かしてもっと全国に知ってもらえるようにしたいなと思った。

(エ) 成果と課題

久々に実施できた県外研修であったが、実物を見たり、体験をしたり、実際に会って話を聞いたりすることの良さを改めて感じた2日間であった。紙すきの体験については、本校の近隣にも和紙の文化があるので、今後地域のことを考えていく上での参考になったのではないかと思う。また、山深く、交通の便も決してよいとはいえない場所にある馬路村が、全国に広く知れ渡り、たくさんの加工品が販売されていることは、自分たちの住んでいる西条市の活性化を考える上で生徒たちの励みになったのではないかと思う。生徒たちは終始熱心に研修に取り組み、有意義な研修の機会となった。

(5) 県外研修 (福岡県)

ア 目的

研究の先進校である福岡県立香椎高等学校のファッションショーを見学し、また交流を図ることで、本校でも実施しているファッションショーのノウハウを学ぶ。本校での取組内容である「椿の花」の水引細工づくりを通して、椿文化の普及を図る。

イ 実施内容

(ア) 福岡県立香椎高等学校ファッションデザイン科ファッションショー見学

福岡リーセントホテルで開催されたファッションショーを見学した。会場がホテルで、ランチの後にファッションショーを行うという企画であったため、ショーのコンセプトに基づいたテーブルセッティングやステージ、運営の様子まで見ることができ、大変参考になった (写真15)。



写真15 ファッションショーの会場

(イ) 福岡県立香椎高等学校との交流会

ファッションショー終了後に、ファッションショーに出演していた生徒と交流会を行った。初めに互いに学校の紹介をし、その後、今回のファッションショーに向けての企画・運営の過程について教えを受けた。その後、本校で取り組んでいる「椿の花」の水引細工を一緒に制作した。一対一

で本校生徒がアドバイスしながら制作に取り組んだ。最初は初対面で少し緊張感もあったが、すぐに打ち解けて互いの学校生活の話なども交えながら和やかな雰囲気交流会となった。県外の生徒同士が交流する機会はあまりないので、とても貴重な交流の機会となった（写真16）。



写真16 交流会の様子

(ウ) 「博多町屋」ふるさと館見学

博多の伝統産業である博多織の歴史や織機、作品等を見学した。町屋の建物も見ることができた（写真17）。



写真17 見学の様子

(エ) 生徒の感想

- ・ファッションショーを見て、自分の夢を再確認できたことが一番大きいです。小さいころから絵を描くことや工作が好きで、高校に入って「好き」を仕事にしたいと思うようになり、専門学校に進学することを選びました。「好き」を仕事にすることは難しいとされていますが、これまで以上に技術を磨き努力し、夢を追いかけます。
- ・県外の高校の活動を学ぶことで、新しい考え方やアイデアを知ることができたのでよかったです。香椎高校では、自分たちがしたいコンセプトについてのプレゼンをしていたり、デザインもしていたので凄いなと思いました。小松高校では、地域の特産品を使った商品開発が進んでいるので、できるのが楽しみです。
- ・ファッションショーでは、一つ一つ個性あふれる作品に圧倒されました。質問したところ、製作費もたくさんかかるし大変だけど楽しいと話してくれました。私は同じ年齢でここまで素晴らしい作品を作っていることやファッションショーでの表情に感動し、うらやましいと思いました。ファッションやデザインの道に進みたいと再確認することができました。これまで以上に努力し、夢を追いかけたいと思いました。
- ・ファッションショーを見て、同じ高校生でもこんなにすごいことをしてるんだと驚きました。私は今後、服飾系に進むので、香椎高校のみんなのようにデザインやパターンから服を作ってみたいなと思いました。
- ・私たちが取り組んでいる水引細工で交流できたのがよかった。出来上がった作品を見て「かわいい」「きれい」と言ってもらって、嬉しかったです。
- ・博多織は高級感が漂っていました。どの地域にも伝統産業があるんだなと思いました。

(オ) 成果と課題

産業教育フェアでの意見交換の際に知ったファッションショーを実際に見学し、また、互いに交流する機会が持てたことは何よりの貴重な体験となった。レベルの高いファッションショーに生徒たちは終始圧倒されていたが、同じ高校生の取組を知り、とてもよい刺激になったと思う。

(6) 県外研修（長崎県）

ア 目的

やぶ椿が自生地として有名な五島列島で、椿を生かした観光資源や伝統産業を知ること、椿の町づくりを考える。

イ 実施内容

(7) 五島つばき空港（写真 18）

空港には、たくさんの椿の写真や街路樹としても椿の木が植えられていた。土産物売り場でもたくさんの椿油を使用した焼き菓子や化粧品、椿をパッケージに使用した商品が販売されていた。



写真 18 五島つばき空港

(8) 五島椿森林公園

広い敷地内にたくさんの椿の木がある。訪問時は12月で、やぶ椿や山茶花が中心であったが、五島列島で発見されたという幻の椿「玉ノ浦」も咲き始めていた（写真 19）。



写真 19 玉ノ浦

椿の品種名が記されたネームプレートや、品種ごとに分けた植栽など、椿の観察がしやすいよう整備されていた。また、芝滑りができるようになっており、訪問時にも、地域の子どもが遊びにきていた。観光地でありながら、地域の方が立ち寄れる場所となっていた。

(9) 鬼岳四季の里

椿油絞り体験をした（写真 20）。椿の種を石臼で丁寧にすりつぶし、熱湯で炊き、油分が浮いてきたら上澄みを集め蒸留する。様々な工程を経てきれいな黄色い油が抽出できた。椿の種をすりつぶす作業に時間がかかったが、学校でもやってみようという意見も出てきた。五島では昔から椿油の生産を行い、産業として成立してきた話も印象的だった。



写真 20 椿油絞り体験

(10) 五島の椿株式会社（写真 21）

五島の椿を栽培・管理しながら、椿の魅力を最大限に生かした商品を販売している会社で、会社を設立した経緯などの説明を受けた。従来使用していた油だけでなく、椿の葉や花、果皮、さらに酵母を活用した化粧品や魚醤など様々な商品を開発している（写真 22）。パッケージデザインも有名なデザイナーによるもので、土産物としてだけでなく、インターネットショッピングなどでも購入したいと思える商品を開発していた。また、一企業の利益を求めるのではなく、五島列島の持続可能性を目指し、産業の創出や雇用を生む仕組みづくりについても話された。作業所の方がちぎり絵をしたお礼状も見せていただき（写真 23）、生徒たちは、こういった起業や仕事の形があることを知り刺激を受けていた。



写真 21 五島の椿株式会社

次に、本校で実施してきた椿文化の研究成果を紹介した。椿の水引細工や消しゴム判子、染色などの成果を紹介した。自分たちの活動は卒業したら終わりではなく、これからも自分にできることを地域貢献の視点を持って取り組んでほしい。



写真22 化粧品

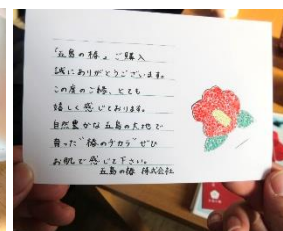


写真23 お礼状

(オ) 生徒の感想

- ・これまでたくさんの活動をしてきましたが、この研修を通して椿を活用する方法はまだたくさんあるということを知りました。そして、何のために椿文化を学んでいるか、もう一度考えることが大切だと思いました。
- ・西条市はまだ椿文化を知らない人が多いのに対して、五島列島の人たちはお土産や食べ物などに椿を使っており、ちゃんとアピールしていたので、想いがすごいと思いました。
- ・3年間椿のことを学んできましたが、まだまだ知らないことがいっぱいあって、椿はオイルにもなるし、醤油にも使えるということなど本当にたくさんの知識が得られました。そして、私は将来パン屋さんで働くことを目指しているため、椿の酵母を使ったパンが作りたいです。また、五島列島の方はいろんな観点から物事を考えたり、消費者のことを第一に考えたりしているから成功しているのだと思います。これからまた活動に関われる機会がある時には、このような事を大切に、地域を活性化できたらと思います。

II-II 伝統文化・地域特産品の研究

1 研究の概要

項目	活動内容	活動日	科目	場所
魚食文化	お魚料理講習会	12月15日	家庭総合	小松高校
	学校給食メニューの開発	10月～12月	フードデザイン	小松高校
	シーフード料理コンテスト	6月～9月	フードデザイン	小松高校
	お魚弁当の開発	10月～11月	フードデザイン	小松高校
	レシピ集の作成	10月～3月	課題研究	小松高校
椿文化	椿のクリーニングバッグデザイン	9月～3月	美術II	小松高校ほか
	椿の名前プレート	6月～3月	課題研究	小松高校
	椿のステンシル	9月～3月	課題研究	小松高校
	椿カレンダー	5月～6月	生活産業基礎	小松高校
	椿のコサージュ	11月～2月	課題研究	小松高校
	椿の児童文化財	9月～3月	子ども文化	小松高校
	記念植樹	1月～	課題研究	小松高校ほか
はだか麦	はだか麦に関する講義	10月22日	生活産業基礎	小松高校
	レシピ集の作成	10月～	課題研究	小松高校
商品開発	「蔵はち」との共同開発	9月～	課題研究	小松高校
	「ローソン」との共同開発	9月～	課題研究	小松高校
	「くろ～ば～」との共同開発	9月～	課題研究	小松高校

2 研究の内容

(1) 魚食文化研究

ア お魚料理講習会（1年 家庭総合）

- (ア) 講師 西条市河原津漁協 漁業女性部 川又 由美恵 氏
西条市壬生川漁協 稲井 藤美 氏

(イ) 目的

西条市で水揚げされる魚について知り、魚の調理について基本的な知識と技術を身に付ける。

(ロ) 活動内容

アジを三枚におろし、それを使用した南蛮漬けを作った。まず初めに、講師の方から作業工程の指導を受けた。手早く、丁寧に、そしてきれいな仕上がりに歓声があがった。続いて、一人一人がアジを1匹ずつ三枚におろした(写真24)。生まれて初めて魚をさばいた生徒も多く、貴重な経験となった。きれいにおろせると周りに自慢をする生徒や、骨に身がたくさん残ってしまい残念がる生徒もいた。



写真24 三枚おろしの様子

アジは、片栗粉をまぶし、南蛮漬けにした(写真25)。今回は、食品ロスを意識して、アジの中骨を廃棄せず、骨せんべいとして調理した。下味を付けた骨を揚げ、講師の方から、二度揚げするとパリパ



写真25 南蛮漬けの調理

りになってより食べやすくなるとアドバイスを受けた。南蛮漬けも骨せんべいもととてもおいしく、「家でも作りたい!」「お魚おいしい!」と話す生徒が多くいた。今後も、更にお魚を使った調理実習を行うことで魚の調理技術向上を目指していきたい。また、今回の経験を生かして、魚に合った料理やレシピを考案していきたい。

(エ) 生徒の感想

- ・人生で初めて魚をさばきました。思っていたよりも簡単で、意外にも上手にできたと思います。家で魚料理を作る時は、切られているものを使っているの、自分でさばいて作るのもいいなと思いました。今回は南蛮漬けでしたが、さしみやムニエルなどいろいろな魚料理を作りたいです。
- ・魚をさばくのは慣れているのでスムーズに三枚おろしにすることができました。自分でさばいて調理することで改めて食材に対するありがたみや感謝を感じました。家庭でも魚を食べる機会が多いので、自分一人ですることができるようになりたいと思いました。
- ・今日、生まれて初めてお魚をさばきました。うろことぜいごを取るのは、まだ簡単だったけど、頭を切り落とし、はらわたを出すところが少し怖くて大変でした。三枚におろすのは、きれいにできたのでよかったです。今度、家でも魚をさばいて家族や友だちにも食べさせてあげようと思います。次さばくときは、もっと手際よくスピーディーできれいにできるように頑張りたいです。
- ・お魚をさばくのは、両親が調理しているのを見ていたし、さしみを切ったことがあったけど、骨の位置や力加減が分かりませんでした。さばいていくうちにどんどん楽しくなってきたので家で調理してみたいと思いました。そして、魚に対して感謝する気持ちにもなりました。

イ 学校給食メニューの開発 (3年 フードデザイン)

(ア) 目的

魚食文化の普及を促進するため、昨年度から学校給食メニューの開発に取り組んでいる。昨年度は魚を使った料理のみを開発し、3品提供した。今年度は、魚を使った料理の他にも地産地消を目指した一食分の献立を考え、魚食普及を推進させる。

(イ) 活動内容

① 学校給食の学習

学校給食について、献立構成や学童期に必要な栄養素などを学習した(図1)。主食、副食(2品)、汁物、牛乳で構成されているものが多くあった。

② 献立の考案

初めに、魚を使った料理を考えた。副食だけでなく主食や汁物にも使用できるので、昨年度より幅広くメニューを考えることができた。また、地産地消を目指し、西条市産の農産物や水産物を使用するよう意識した。次に、一食分の献立を考えるためには、使用する食材の栄養素も考慮することが必要になる。そこで、使用する食材を3色食品群に

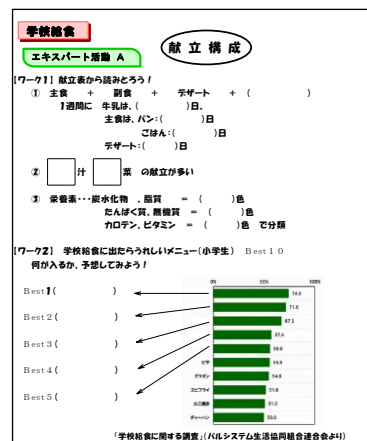


図1 学校給食の学習 ワークシート

「黄」おもにエネルギーになる：炭水化物、脂質
 「赤」おもに体をつくる：たんぱく質、無機質
 「緑」おもに体の調子を整える：ビタミン

図2 3色食品群の分類

学校給食献立 (1食分) を考えよう!		主な材料				調味料
品名	黄	赤	緑	その他	糖	塩
主食						
副食						
汁物						
デザート						

図3 3色食品群 ワークシート

分類し（図2）、栄養素の過不足がないようにワークシートへ記入した（図3）。考案した献立は次のとおりである（図4）。

<p><献立1></p> <p>主食：ひじきご飯</p> <p>副食：サワラのチーズパン粉焼き</p> <p>副食：さやいんげんのごま和え</p> <p>汁物：たけのことわかめのスープ</p> <p>牛乳</p>	<p><献立2></p> <p>主食：さつまいもパン</p> <p>副食：イワシのチーズフライ</p> <p>副食：磯香和え</p> <p>汁物：はだか麦入りミネストローネ</p> <p>牛乳</p>	<p><献立3></p> <p>主食：わかめご飯</p> <p>副食：プリの照り焼き</p> <p>副食：鶏肉と野菜のナムル</p> <p>汁物：はだか麦と野菜のスープ</p> <p>牛乳</p>
--	--	--

図4 考案した献立

③ 試作調理

考案した献立の中から、お魚を使った副菜のプレートを試作した（写真26）。



サワラのチーズパン粉焼き
さやいんげんのごま和え

さわらとほうれん草の
クリームグラタン
大根サラダ

白身魚のホワイトソース煮
ブロッコリーのツナ和え

媛スマのから揚げ
糸寒天のさっぱりサラダ

写真26 試作した料理

(ウ) 生徒の感想

- ・栄養バランスが偏らないようにしました。お魚を使ったメニューは、グラタンの中に入れると苦手な子どもでも食べやすいと思えました。
- ・まず、子どもが好きそうな魚料理を考えました。その次にご飯に合うか、パンに合うかを考えて、全体のバランスを見て副菜などを決めました。これだったら食べてくれるか、これにしたら調理しやすいかななども考えました。調理する方のことも考えて工夫しました。
- ・まずは、栄養のバランスを重視しました。偏りなくバランスの良い献立ができたと思います。次に、見た目も工夫しました。パッと見たときに彩りよく盛り付けされていると「おいしそう」「楽しい」といった言葉が自然にでるといいという思いも込めました。
- ・私が献立を考える時に配慮したことは二つあります。一つ目は栄養バランスです。子どもが好きそうなものばかりにしてしまうと栄養が偏ってしまうので、ビタミンがしっかり取れるよう野菜の多いメニューにしました。二つ目は彩りです。子どもたちの中には見た目が嫌で食わず嫌いになってしまう子どもも多いので、色が偏らないように気を付けました。
- ・私が給食を食べていた頃に好んでいたものを基に、愛媛県産の媛スマを使った主菜を考えました。そうすることで子どもたちも好んで食べてくれると考えたからです。このようなメニューを毎日考えている給食センターの方々はすごいと実感しました。
- ・魚嫌いな子どものために、揚げ物にすることで食べてくれると思いました。その上にパプリカ、玉ねぎをのせ、南蛮酢にすることで、野菜もあるので栄養もとれます。また、豚汁はさつまいもを入れて、野菜もたくさんあるので子どもに必要なビタミンをとれます。子どもたちが嬉しいと思うメニューやつくりやすさ、栄養面に配慮しました。

ウ シーフード料理コンクールへの挑戦（2年 フードデザイン）

(ア) 目的

日本人の魚離れ対策や魚食文化の普及のために、新たなレシピを考え、第22回シーフード料理コンクール（主催：全国漁業協同組合連合会）に挑戦する。

(イ) 活動内容

① 海産物についての調査

日本や愛媛県、地域で水揚げされる魚介類の特徴や適した調理法について、タブレット端末を使用して調べた。よく目にしたり、食卓に出てきたりする魚については知っているが、地域で水揚げされている「鱧」や「がざみ」など馴染みのない魚介類については、初めて知る生徒も多かった。

② 使用する食材の検討

海産物と、西条市や愛媛県の特産品を組み合わせるなどの工夫をしながら、テーマの「食事のメインになる魚料理」に適する食材を検討した。その際に、西条市で獲れる海産物や農産物の一覧を参考に検討した。

③ オリジナルレシピの考案

オリジナルレシピを考案し、材料と分量、作り方をまとめた。

④ 調理と試作

考えたレシピを基に各自で調理を行い、試作・改善を繰り返した（写真27）。写真27 調理の様子
完成したレシピの中から、14点を応募した（表1）。



表1 応募料理の一覧

	料理名
1	とうふハンバーギョ（写真28）
2	冬のブリグラタン（写真29）
3	キスのからあげおろしあんかけ（写真30）
4	鯛のパングラタン（写真31）
5	鯛のロールキャベツ（写真32）
6	とろ〜りクリーミーShrimp
7	がつつりブリの麦味噌カツ丼（写真33）
8	ブリのキムチーズマヨ
9	たらのPIZZA焼き
10	鯛とタコの混ぜ込みご飯
11	タイとトマトのなべスープ
12	がつつりタラのフィッシュバーガー（写真34）
13	EHIMEの照り焼き
14	いなりざくら（写真35）



写真 28



写真 29



写真 30



写真 31



写真 32



写真 33



写真 34



写真 35

残念ながら入選することはできなかったが、たくさんの人に魚をおいしく食べてもらうためにそれぞれが工夫を凝らしたレシピを考えることができた。

エ レシピ集の制作

(ア) 目的

これまで実施した魚の料理講習会やシーフード料理コンクール、学校給食メニューの開発などで考案したレシピをまとめ、魚食文化の普及に努める。

(イ) 内容

プレゼンテーションソフトを活用し、一品の材料と分量、作り方、出来上がり写真を1ページにまとめる(写真36)。見やすくするために、写真や文字の配置、文字のフォントや大きさ、写真のサイズ、イラストの挿入などを工夫した。一番苦労したのは、限られた文字数で作り方をまとめなければならなかったことである。



写真36 レシピの編集

2年生と3年生のレシピが合計20品完成した(図5)。このレシピ集で作った魚料理が食卓に上ることを期待したい。

<p>たらとキャベツのうま〜いパスタ</p> <p>たら</p>  <p>•材料(2人分) たら 80g パスタ 160g ニンニク 2片 キャベツの葉 4~5枚 パスタの湯 2.3つまみ 鶏がらスープの素 大2 牛乳 100cc バター 大1 小麦粉 適量 塩、こしょう 適量 レモン汁 小1</p> <p>•作り方 ①熱湯でパスタをゆでる。 ②キャベツは約3cmの色紙切りにする。 ③たらは一口大に切り、耐熱皿にのせて5~10分蒸し、パスタを軟らかくする。 ④オリーブオイルでニンニクを炒める。茶色に色づいたら、パスタとキャベツを入れて混ぜ合わせる。小麦粉をまんべんなく振りかけて2~3分炒める。 ⑤火を止め、牛乳を少しずつ入れクリーム状になったら火をつけ、残りの牛乳とスープの湯を入れてとろみがつくまで煮込む。 ⑥パスタとたらを加えて、塩こしょうで味を整えて完成。</p>	<p>鯛の大葉ライスバーガー</p> <p>鯛</p>  <p>•材料(2人分) 鯛 160g 大葉 4枚 小麦粉 400g ゆずこしょう 適量 醤油 適量 パン粉 適量 卵黄 少量 塩、こしょう 少量</p> <p>•作り方 ①鯛の骨を取り塩こしょうで味をつける。 ②小麦粉、卵、パン粉の順につけて160℃の油で揚げられる。 ③炊いたご飯を100gずつ丸めて平らにし、ごま油と醤油で弱火で焼く。 ④鯛にゆずこしょうをぬって焼いたおにぎりにのせて、その上に大葉をおいて、おにぎりをおく。</p>	<p>プリのキムチチーズマヨ</p> <p>ぶり</p>  <p>•材料(2人分) ぶり 2切れ 水 100cc しょうゆ 小さじ1 みりん 小さじ1 鶏がらスープの素 小さじ1 おろししょうが 1-2粒 ごま油 小さじ1 キムチ 80g チーズ 80g マヨネーズ 適量 ネギ 適量</p> <p>•作り方 ①鯛に水、しょうゆ、みりん、鶏がらスープの素、しょうがを、入れて煮立たせる。 ②煮立ったら皮を下にしてブリを入れ、ふたをして中火で4~5分加熱する。 ③キムチを入れ、弱火で5~6分煮込み、ごま油を入れる。 ④チーズを加え、仕上げにマヨネーズをかけて、ネギを盛りつけて完成。</p>
<p>ギョ!ギョ!ぎょうざ</p> <p>さわら</p>  <p>•材料(2人分) ぎょうざの皮 80枚 さわら 1/4尾 にんにく 4片 醤油 大さじ1 おろししょうが 小さじ1 おろししょうが 小さじ1 ごま油 小さじ1 ごま油 小さじ1 ごま油 小さじ1</p> <p>•作り方 ①さわらの骨を取り、包丁でななめにミンチにする。 ②キャベツ、ニラはみじん切り、にんにく、しょうがはすりおろす。 ③①のミンチと②の塩、しょうゆをよく混ぜ、ぎょうざの皮で包む。 ④熱したフライパンに、ぎょうざを並べて中火で焼く。焼き色がつくまで焼く。水を加えて蒸し焼きにする。 ぎょうざの作り方 •材料を混ぜる。※ラー油は華さまで見ながら入れる。</p>	<p>なかよし包み</p> <p>えび</p>  <p>•材料(2人分) えび 6尾 アスパラガス 1/2本 パイシート 1/2張 ピザ用チーズ 適量 ホワイトソース 少々</p> <p>•作り方 ①アスパラガスとえびをそれぞれ塩ゆです。 ②パイシートをのばして、ホワイトソースを全面に塗りアスパラガスとえび、チーズを入れて包む。 ③230℃のオーブンで10分焼いて完成。</p>	<p>鮭のホワイトソースオムライス</p> <p>さけ</p>  <p>•材料(2人分) 鮭 一切れ バター 25g 玉ねぎ 30g ピーマン 10g にんじん 30g 薄力粉 25g 牛乳 300g 卵黄 2個 卵白 150g マッシュルーム 適量</p> <p>•作り方 ①鮭を耐熱容器に入れて、電子レンジで1分温める。 ②フライパンにバターを入れて、みじん切りにした玉ねぎ、にんじん、ピーマンを炒める。 ③ご飯を入れてコンソメを入れて炒める。 ④フライパンにバターを少しして薄力粉を入れ5分加熱する。 ⑤火を止め、牛乳を入れて混ぜる。 ⑥とろりとしてきたら弱火にしてしばらく煮込む。 ⑦マッシュルームを入れる。 ⑧卵2個を焼き、ご飯にのせ、ホワイトソースをかけ完成。</p>

図5 魚料理のレシピ集(一部抜粋)

(2) 椿文化研究

ア 椿のクリーニングバッグデザイン

(7) 概要

令和2年度から、小松町内のクリーニング店「ヨシザネクリーニング」のクリーニングバッグを再利用できるエコバッグに変更するため、バッグのデザインの制作を行っている。昨年度ロゴデザインを行い、「ヨシザネクリーニング」を訪問後、改良案をまとめた(図6)。

- ・小松高校との協働が分かるようなデザインを入れる。
- ・かばんの形は、スタンプカードが入るポケットを付ける。
- ・よいデザインを複数組み合わせてもおもしろい。
- ・クリーニング溶剤は環境に配慮した「EMクリーニング」を取り入れられていることが分かるように、デザインに環境への配慮を表すデザインを追加し改良したい。

図6 令和2年度クリーニングバッグ改良案

今年度は、改良案に着目して、2年生の課題研究や美術Ⅱを中心にバッグロゴのデザインの改良を行った。バッグの色は、小松高校でアンケート調査を行った。完成したクリーニングバッグは10月の小松高祭で披露した。店頭でも10月末から販売された。

(4) 目的

地域のエコバッグデザイン考案を通して、地域に貢献する意欲や達成感を育むとともに、地域よさを知り、表現する実践力を身に付ける。

(5) 活動内容

① クリーニングバッグロゴデザイン(美術Ⅱ)

美術Ⅱ(選択生13名)で、環境を意識したロゴをパーツのデザインを行った。山や石鹼のしゃぼんをイメージした円形、クリーニングボトルなど様々なパーツをデザインした(図7・写真37)。

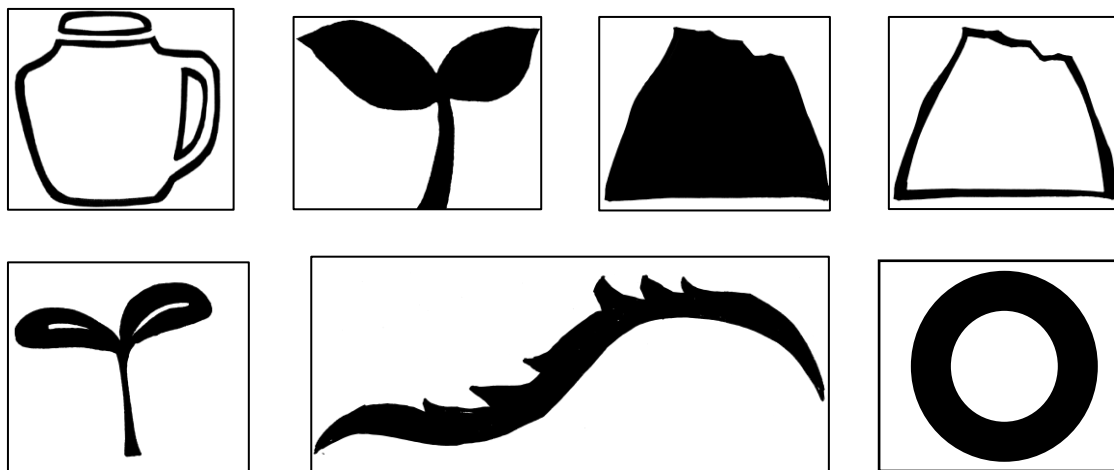


図7 環境を意識したロゴパーツ

デザインしたパーツをプレゼンテーションソフトを使用して、昨年決めたデザインと組み合わせた(図8)。



図8 作業説明スライド

写真 37 令和2年度クリーニングバッグ改良

小松高校の生徒や先生方を対象に、色やデザインの投票を行った。タブレットに、趣旨や「ヨシザネクリーニング」が環境に配慮していること、洗って繰り返し使えるバッグであることの解説を入れ、口頭で説明した。趣旨を踏まえたデザインや色、かつ日常で使いたいと思う色を選んでほしいといったことを補足してから、投票してもらった(写真38)。



選ばれた候補デザインを一覧にし、「ヨシザネクリーニング」でお客様を対象に投票を行った(写真39)。決定したクリーニングバッグは小松高祭で披露した(写真40)。店舗でも同時期に販売され、すぐに売り切れたということであった。



写真 38 投票説明の様子



写真 39 投票説明の様子



写真 40 小松高祭

イ 椿プレート

(ア) 目的

「椿千年の森」の椿プレートの設置など環境整備を通して、地域に貢献する意欲や達成感を育むとともに、地域のよさを知り、表現する実践力を身に付ける。

(イ) 活動内容

令和2年度、椿千年の森清掃活動時に装着した数字タグと、開花写真の整理を行った。しかし、写真の鮮明度が悪く、また椿の品種は似たものが多く、図鑑と写真だけでは判別が難しかった。そのため、12月以降、2年生ライフデザインの授業で、椿千年の森に図鑑を持参し、判別を試みた。しかし、図鑑と比較しても判別が難しかったため、小松つばき会の方の協力を受けた。小松町で大

切にしている篤山椿の木は判別が可能だということから、篤山椿のプレートを試作している。雨風の影響を踏まえて試作をしており、大きさや加工方法など、小松つばき会や小松総合支所の方とも相談し、改良していきたい。

ウ 椿のステンシル ※ステンシル・転写の技法の一つ

(ア) 目的

椿文化を広めるために、布や紙を使用した小物に多く活用できるステンシルに注目した。2年生が取り組み、オリジナルの椿のステンシルを作り、活用の幅を広げる。

(イ) 活動内容 (写真 41)

① ステンシルのデザイン考案

タブレットを活用し、椿のデザイン画を考えた。椿の花や葉の形も様々あり、それを組み合わせてオリジナルのデザインを作り、色付けする。



② ステンシルシートの転写

デザイン画をステンシルシートへ転写する。花や葉、枝の部分などはシートを別にする。色が入る部分のみカッターで切り取る。



③ 色付け

色付けする布や紙にステンシルシートを置き、スポンジを使って色を付ける。

写真 41 制作の様子

(ウ) 完成した作品

- ・コースター (写真 42)
- ・パズル (写真 43)
- ・バック (写真 44)
- ・ポロシャツ (写真 45)



写真 42 コースター



写真 43 パズル



写真 44 バック



写真 45 ポロシャツ



エ 椿カレンダー

(ア) 目的

カレンダー制作を通して、多くの椿の種類を知り、知識を深めるとともに、分かりやすく伝えるためのデザイン技術を学ぶ。

(イ) 活動内容 (写真 46)

小松町に咲く椿の写真を基に、一人一人がオリジナルのカレンダーを制作した。椿の花の色、形や花びらの数、名称等を確認しながら作業を進めた。



写真 46 カレンダー制作

(ウ) 完成した作品 (写真 47)

完成したカレンダーは、校内だけでなく、小松公民館（小松文化祭）や東予信用金庫小松支店などにも展示した。



写真 47 椿カレンダー

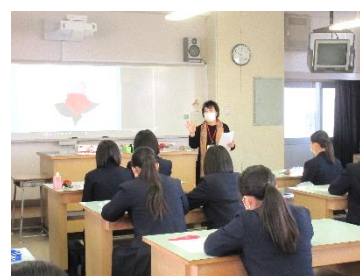
オ 椿のコサージュ制作

(ア) 目的

椿文化の普及活動が続いているが、近隣の小学生や中学生との交流の機会がまだまだ少ない状況が続いている。小松の椿を伝承するためにも、椿のコサージュを制作し、小松小学校と小松中学校へプレゼントし、椿文化普及の輪を広げる。

(イ) 活動内容 (写真 48)

フラワーデザイナーの玉井初美氏を招き、2年生を対象にコサージュ制作の講義を実施した。椿の葉にワイヤーを付け、リボンや紅白水引で葉飾りを作った。最後にフローラルテープを巻き付け、安全ピンを取り付けた。



(ウ) 完成した作品 (写真 49)



写真 49 椿のコサージュ



写真 48 椿のコサージュ講義

カ 椿の水引細工の伝承

(ア) 目的

椿文化を広めるために、初年度から椿の水引細工の制作を行ってきた。今後のイベントや後輩たちに伝えていくことで、校内外に椿文化の伝承を図る。

(イ) 活動内容

① 椿の水引細工の作り方(図9)

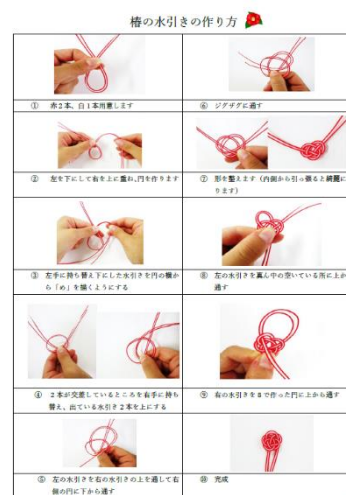
3年の課題研究で文字作成ソフトを使用して、椿の結び方をまとめた。印刷し、どうすれば見やすくなるか調整を行った。

② 椿の水引細工の作り方(動画)(写真50)

2年の課題研究で動画を撮影し、説明文を付け、作り方の動画を作成した。



10、右に水引を9で作った田に上から通す
写真 50 椿水引細工の作り方(動画)



小松高校ライフデザイン科

図9 椿水引細工の作り方

③ 1年生への樁の水引細工の講習会（写真51）

3年生は、3年間の取組の成果もあり、ほぼ全員が水引細工で梅結び（樁の結び方）を結ぶことができる。来年度以降も水引細工を使った活動が出来るよう、3年生から1年生を対象に講習会を行った。日頃あまり関わりがないため、3年生は、はじめ不安を感じていたが、分かりやすく教えるためには、どう伝えたらよいか、各自で考えながら進めることができた。また、丁寧に、何度も繰り返し説明し、出来たときは褒めながら指導する姿に成長を感じた。また、1年生も教員や外部からの講師が指導するよりも、個別での指導であった点や身近な先輩からの指導であった点からか、楽しみながら一生懸命取り組むことができた。1年生は、初めて水引に触った人がほとんどであったが、1時間で「あわび結び」と「梅結び」を完成させることができた。これから1年生も樁の普及活動に即戦力として活動してもらいたい。



写真51 樁の水引細工の講習会

(3) はだか麦研究

ア はだか麦に関する講義

(7) 講師 東予地方局 産業経済部 産業振興課
地域農業育成室 山口 耕司 氏

(4) 目的 西条市が全国一の生産量を誇るはだか麦について講義を受けることで、地域の特産物であるはだか麦についての知識を身に付ける。



(7) 内容 (写真 52)

- ・はだか麦の歴史について
- ・はだか麦の生産量の推移について
- ・はだか麦の種類や成分について
- ・はだか麦の加工品について
- ・はだか麦の消費の現状について



(E) 生徒の感想

・今回、はだか麦や小麦などの特徴や歴史など様々なことを知り、今まで麦のことを考えたことがなかったので、初めて知ったことがたくさんありました。私も普段、もち麦をお米に混ぜて炊いて、食べています。これからは、麦の知識を知った上で、食べていきたいと思いました。また、実物も見ることができて、粒の違いも分かり、よかったです。



写真 52 講義の様子

- ・今回の講義を受けて、たくさんはだか麦のことを知ることができてよかったなと思いました。生産日本一なのは知っていましたが、他県に比べて倍以上に多く、よい点がたくさんあることを知りました。今日、はだか麦 100%のお茶を飲んでおいしかったので探して買いたいです。
- ・今回、西条市の麦について講義をしていただき、はだか麦のよさについてたくさん知ることができました。西条の作付面積3年連続西条市が日本一をとっているという事にとっても驚きました。私は、はだか麦が大好きなので、これからはより感謝の気持ちを持ち、たくさん食べていこうと思います。今日の講義で学んだことを家族や友達にもお話してはだか麦のよさをもっと広めていけたらいいなと思いました。

イ はだか麦を使った菓子レシピ

(7) 目的

はだか麦を使った菓子を普及する。

(4) 内容

はだか麦は入れる量が難しく、試作を繰り返し、みんなに広めたいレシピをまとめた (図 10)。



図 10 はだか麦の菓子レシピ

(4) 商品開発に向けて

ア 「おおさかや 蔵はち」との共同開発

(7) 目的

はだか麦や西条市の特産品である伊予美人（里芋）等使った商品を共同開発し、地元企業との連携を図りながら販売することで、全国に西条ブランドを広め、地域の魅力化・活性化につなげる。

(4) 活動内容

活動内容	活動日
講義「商品開発に向けて」	6月7日(月)
はったい粉クッキー企画書完成	7月20日(火)
チーズタルト試作①	10月12日(火)
商品開発 試食&企画会議	10月19日(火)
チーズタルト試作②&試食	11月16日(火)

① 講義「商品開発に向けて」

「おおさかや 蔵はち」より山地良太氏を招き、商品開発に向けての講義を行った。店舗にて実際に販売されている商品について、開発の経緯やはだか麦を使用したクッキーについての助言やアドバイスを受けた（写真53）。



写真53 講義の様子

② はったい粉クッキー企画書の作成

講義を受けた後、「はったいコロコロクッキー」の企画書を作成した。年齢や性別などのターゲット、内容量（〇個、〇g）、キャッチフレーズ、味の工夫、パッケージデザイン等を考えた（図11）。

さくほろクッキー

40代女性

7個、42g

ティータイムのお供!! ささやかな楽しみ

パウダーや柑橘の皮を混ぜて味変

小松オアシス・いとまち・アンテナショップ

（しずる感商品）ほわほわしっとりふわふわとろける溶けるサクサクとろとろパリパリもちもち

パッケージデザイン 高さ(立紙)、ラベル

商品の屋根の部分の切り抜く。(枠の形)

商品説明 はったい粉には多くの栄養成分が含まれている。塩分の少ない高繊維の小麦を配合して健康感を追求する開発があります。また、高繊維が水分を吸収し水分が蒸発しやすいため、食べ過ぎを防ぐ効果も期待できます。

さくところと

20代女性

4個

キャッチフレーズ さくところと自分たちの思い 小松高次の作ったお菓子が東京の人たちに広まればいいなと思います。

味の工夫 コーヒー味、ミカン味、粉砂糖、ミルクティー味、ヨアモレ味など

販売希望先 東京アンテナショップ

（しずる感商品）ほわほわしっとりふわふわとろける溶けるサクサクとろとろパリパリもちもち

パッケージデザイン

商品説明 小さい瓶に入れる。色々な味を自分で選んでその場で入れられるようにしても良い。

商品名 はったいコロコロクッキー

ターゲット(性別・年齢など) 10〜20代の女性

内容量(〇個、〇g) 5〜8個

キャッチフレーズ 自分たちの思い 高繊維のはだか麦を使用した全国に広める。

味の工夫 いろんな味をいれて一口サイズで食べやすく味や色をまじるようにする。

販売希望先 東京銀座・長沼竹下通り

（しずる感商品）ほわほわしっとりふわふわとろける溶けるサクサクとろとろパリパリもちもち

パッケージデザイン 高さ(立紙)、ラベル

写真やイラスト

・丸い箱型か、最近多くなっているチャック袋に入れない

・極プレミアムな成分配合を追求するから得意にスタンションして、中にクッキーを入れて売ってみるの面白いかもしれない

商品説明 サクサクほろほろとした触感の楽しいクッキーです。中に使用しているはったい粉にはダイオキシンや残留農薬などいことづくし!

図11 企画書

③ チーズタルトの試作

山地氏より、東京での販売に向けて、生菓子の商品を開発できないかとの提案を受けた。そこで、西条市の農産物である伊予美人（里芋）やブルーベリーを使った生菓子の商品開発を進めた。試作をした後、商品名やキャッチフレーズを考えた（写真54）。



生徒の感想

写真54 チーズタルト試作

- ・今日は伊予美人（里芋）を使った商品を試作しました。里芋クリームの下にブルーベリーレアチーズの2層のタルトです。里芋は英語で“TARO”と言うそうです。商品名は“TARO”と“甘酸っぱい”を入れられたらいいなと思いました。
- ・里芋クリームをつくりました。クリームを丸く形作って焼くのは大変だったけど、みんなで協力して楽しくできました。水あめ入りのクリームの方が美味しかったです。
- ・まず芋の皮をむく作業から始まりました。とても熱くて苦戦しましたが、きれいにむけました。フードプロセッサーでペースト状にしました。とても白くなって、ネバネバして、すごくいい香りがしました。絞ったものに卵をかけて、スイートポテト風にしてもいいと思いました。
- ・商品の試作をしました。里芋をスイーツにして食べるのには、想像が付きませんでした。里芋クリームを食べてなめらかさと甘さがほどよく、美味しいなと思いました。生クリームを少し減らして里芋感を増やしたらもっとよくなると思いました。改良して、また作りたいです。

④ 試食&企画会議

山地氏をお招きして、試作品の試食と商品名やパッケージについて企画会議を実施した。商品は、実際の販売と同じように冷凍保存した後、解凍したものを試食した（写真55）。

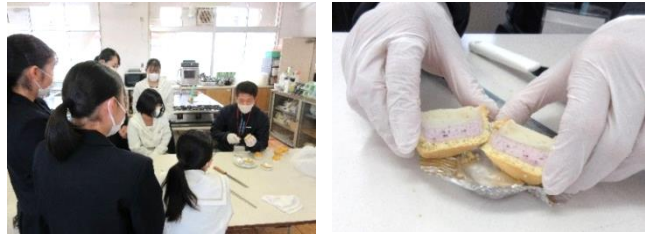


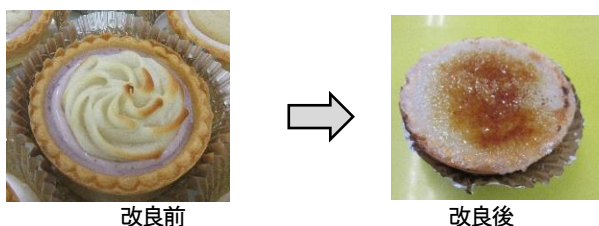
写真55 試食

生徒の感想

- ・前回試作した里芋のタルトを試食しました。ブルーベリージャムの量の違いや里芋のクリームを焼いたものの違いを食べ比べしました。表面だけを焼いてみるのもよいというアドバイスから、実際に食べてみるとすごくおいしく、もう一つ食べたいと思いました。商品化できそうだというお言葉を聞いてよかったです。パッケージや商品名も考えていきたいです。
- ・蔵はちさんと一緒に試食をしました。味もおいしいと言っていただき、商品にもできると言ってくださいました。とても嬉しかったです。試食した感想は、意外とさつまいもとクリームチーズが合って、とてもおいしかったです。次は、商品名やキャッチフレーズを考えていきたいです。
- ・ブルーベリーチーズと里芋クリームの相性がとてもよくて、おいしかったです。甘すぎず、すごく食べやすかったです。紅茶やコーヒーにも合いそうです。
- ・クリームチーズがあまり好きではない私でもブルーベリーと里芋があることによって、食べることができました。組み合わせもよく、2層になっていてきれいでした。

⑤ チーズタルトの改良試作

試食をした後、山地氏より助言・アドバイスを受けた。作業工程の簡略化と、見た目のよさと、より食感を楽しめるよう改良を加えた（写真56）。



改良前

改良後



写真56 改良試作

⑥ チーズタルトの販売

試作を繰り返した商品を「おおさかや 蔵はち」により、再改良の後、製造していただき、販売することができた。西条市の店舗にて、1月22日（土）より土日限定販売された（写真57）。



写真57 スイートポテトチーズタルト

イ 「ローソン」との共同開発

(ア) 目的

愛媛県の特産品を使った商品を共同開発し、大手企業との連携を図りながら販売することで、地域の魅力化・活性化につなげる。

(イ) 活動内容

活 動 内 容	活 動 日
コンセプトシート作成	8月27日（金）
企画会議（リモート）	9月28日（火）
講義「商品開発に向けて」&試食	10月5日（火）
パッケージデザイン作成	11月9日（火）
改良試食・企画会議	11月30日（火）
商品開発報告（愛媛県庁）	2月21日（月）
商品販売実践	2月22日（火）

① コンセプトシート作成

夏季休業中の課題として、商品のアイデアを考案し、コンセプトシート作成を行った。これまで学習した商品開発についての講義内容を生かしながら、各自で作業を進めた。コンセプトシートは、商品名、販売目的、どのような時に、どのような人に、いくらで買いたい（売りたい）か考えた。また、商品の原材料や味、食感、パッケージデザインも考え、シートの作成を行った。作成したシート31点の中から校内選考を実施し、7点に絞った。

② 企画会議（リモート）

ローソンとの企画会議をリモートで実施した。コンセプトシートを基に、商品の特徴や商品に対する私たちの思いを伝えることができた（写真58）。



写真58 リモート会議

生徒の感想

- ・リモート会議はとても緊張しましたが、無事に終わってほっとしました。これから、よい商品を作るために、業者の方と協力しながら意見交換をしていきたいです。
- ・今日4品のパンやデザートを食べるとどれもすごくおいしかったです。その中でも良かったところ、改善すべきところを細かく話し合いをすることができて少しずつ商品が形になってきていて楽しかったです。リモートで話す経験があまりなかったのですごく緊張しました。
- ・商品の試食をさせていただき、私たちが開発した商品がとても美味しくてよかったです。リモートでの会議も商品のよかった点や改善点を話し合うことができました。少しずつローソンでの販売が近づいているので、とても楽しみです。
- ・試食をさせていただき、自分たちが考えたコンセプトシートをもとに出来上がった商品を見て、どれも美味しくてすごいと思いました。愛媛県産のみかん等、県産のものを使って少しでも売れるような商品が出来上がるのは、とても楽しみです。

③ 講義「商品開発に向けて」と試食

ローソンから講師を招き、商品開発に向けての講義を受けた。ローソンについての紹介を受け、マーチャンダイジング（商品化計画）など、販売までの予定等を確認した。その後、試作品4点の試食を行った。見た目や味等の確認をして、改良したいところなどの希望を伝えた（写真59）。

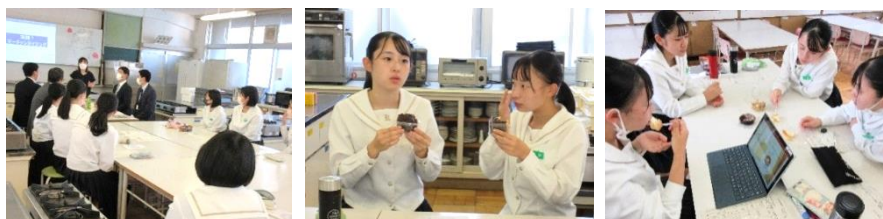


写真59 講義と試食

生徒の感想

- ・マーチャンダイザーの方から商品の販売についてお話を聞いたのでとてもよかったです。マーチャンダイジングなど初めて聞く言葉が出てきて、びっくりしました。売れる商品にするには会議を重ねて作っているのですごいなと思いました。
- ・ローソンの会社説明や商品開発について、今後の活動について教えていただきました。前回の試食した商品よりも、よりおいしくなっていて、よい商品になりそうでワクワクします。
- ・私の中で一番おいしかったのは、みかんのデニッシュです。どれが商品として販売されるのか楽しみです。



写真60 デザイン作成

④ パッケージデザイン作成

商品販売に向けて、試食した4点の商品名とパッケージデザインを再検討した。パッケージデザインには、商品の特徴だけでなく、ライフデザイン科を広く知ってもらえるよう学校の紹介等も入れた（写真60）。



写真61 最終確認

⑤ 改良試食・企画会議

商品の試食を行い、パッケージの文字のバランスや色合い等の最終確認を行った（写真61）。

⑥ 報告会（愛媛県知事と）（写真 62）

2月21日（月）に商品販売の報告のため、愛媛県知事とローソンとの三者で報告会を行った。開発に携わった生徒から商品のコンセプトや特徴などの商品説明をした後、記念撮影を行った。また、報道機関から商品についての質疑応答を行った。



写真 62 リモートの様子

⑦ 販売PR（写真 63）

2月22日（火）に、中四国地区のローソン各店で、共同開発した商品2品の販売が開始された。商品をPRするため、ローソン西条氷見小松店、西条新町店にて販売実践を行った。



写真 63 販売の様子

ウ 就労継続支援B型事業所「くろ〜ば〜」との共同商品の開発

(7) 目的

就労継続支援B型事業所について理解を深めるとともに、連携を図りながら自分たちが身に付けた技術を生かした商品の制作をすることで、共生のまちづくりのパートナーとして自覚を深める。

(4) 概要

昨年度、「椿の水引細工を利用したポチ袋」を制作してはどうかというアイデアが出ていた。地域協働学習実施支援員の處氏からの助言で、西条市の就労継続支援B型事業所「くろ〜ば〜」が、再生紙を利用した御祝儀袋やポチ袋を制作していることを知った。御祝儀袋やポチ袋の制作過程の見学を通して、就労継続支援B型事業所の方々と交流するとともに、自分たちが制作した椿の水引細工を使用した商品を販売してもらった。

(9) 活動内容

① 椿の水引細工の制作（写真 64）

昨年度に身に付けた、梅結びを二重にした赤と白の椿の水引細工を制作した。商品になるということで、きれいに仕上がるようこだわって制作することができた。また、分業するなど、それぞれで作業効率を考え制作を行った。20



写真 64 椿の水引細工

名の生徒で、200個の水引細工を制作した。生徒の中には、緑の水引で葉っぱを作り、より椿らしくなるよう工夫する者もいた。

② 交流

令和3年11月9日就労継続支援B型事業所「くろ〜ば〜」をヒューマンサービスコース3年生9名で訪問した。事前に、「介護福祉基礎」で就労継続支援B型事業所について学習してから訪問した。交流では、「くろ〜ば〜」で制作している封筒に装飾をした(写真65)。完成した封筒や、水引細工を使用した商品はOASIS MARKET(おあしす市場)で販売された。(写真66・67)。



写真65 封筒の制作



写真66 販売された封筒

生徒の感想

- ・作業所の方がたくさんの種類の水引を作っていてすごかったです。水引を使って、いろいろな小物を作っているのを見て、私も作れるようになりたいと思いました。
- ・バランスや色を考えながら飾ることが難しかったです。でも、楽しみながら活動することができ、貴重な体験ができました。
- ・手すき和紙や水引、とても繊細な作業ですごかったです。水引もいろんな、かわいい、すてきな作品でした。御祝儀袋を作るのもとても楽しかったです。ぜひ、「くろ〜ば〜」の皆さんも、小松高校にきてほしいです。
- ・自分の出来る事や得意なことを仕事にしている、とても素敵だなと思いました。「くろ〜ば〜」さんの商品を見かけたので、母と一緒に購入させていただきました。



写真67 集合写真

エ 「にぎたつ会館」とのお弁当開発

(ア) 目的

愛媛県産の農産物や海産物を使用したお弁当を考え、にぎたつ会館との共同開発をすることで地産地消と愛媛県の魅力を広める。

(イ) 活動内容

魚食文化の研究を進めている3年生が、愛媛県産の食材を豊富に使ったお弁当献立を考案した。

① メニュー考案

公立学校共済組合道後宿泊所「にぎたつ会館」から、弁当メニューの共同開発の依頼を受け、3年生の「調理」選択生が、販売価格1,200円の弁当4種類、2,000円の弁当1種類について、グループに分かれてメニューを考案した。普及活動につなげるため、はだか麦か愛媛県産の魚、椿に関するものを必ず一つは取り入れることを条件としてメニュー作りに取り組んだ。給食メニューで開発した真鯛入りの里芋コロッケを取り入れたり、盛り付けで椿を表現したりといった工夫がみられた。

② 企画会議

作成したメニューについて、にぎたつ会館より副支配人の田淵俊文氏、料理長の有光幸弘氏を招き、検討会議を行った。コスト、はだか麦の利用法、お客様の嗜好等について、アドバイスをいただいた。

③ 校内試作

企画会議を踏まえてメニューの改善を行った上で試作を行い、調理法や味のバランス、分量等について、修正を行った(写真68)。



写真 68 試作の様子

④ 販売準備

作成したメニューを提出し、料理長の有光氏にメニューの確認をしていただいた(写真69・70)。また、弁当のかけ紙を作成し(写真70)、学校のホームページに掲載している地域協働の取組にアクセスできるようにQRコードを載せたり、椿等をあしらったイラストを使用したりすることにより普及活動につなげた。



写真 69 1,200 円弁当



写真 70 2,000 円弁当とかけ紙

(ウ) 生徒の感想

- ・食べてもらう人の嗜好を意識し、この年齢層はどんなものが食べたいかを考えながら弁当献立を立てることはすごく難しかったです。
- ・自分たちで考えた椿の形の醤油餅がメニューとして取り入れられたので、小松の椿をアピールできてよかったです。
- ・自分たちで弁当のメニューを考えるのは初めてで、色合いや値段、特産品を使うなど、条件が多くあり苦労しました。問題点が見つかった時は、みんなで意見を出し合いました。はだか麦や椿のモチーフを使って、小松や西条を少しでもアピールできたと思います。

(エ) 弁当の感想

- ・彩り、和洋のバランス、味付けともよく、美味しくいただきました。鯛入りの里芋コロケは、初めてでしたが、家庭で真似してみたいです。
- ・椿の醤油餅は見た目もきれいでgoodでした。
- ・ナポリタンや椿の醤油餅など、地元の文化を取り入れてくれていて楽しい昼食となりました。

II-III 多世代交流・普及活動の実施

1 研究の概要

活動内容	活動日	場所
まちかど家庭科室～ふらっと～① (FC今治ホームゲーム)	6月20日	夢スタジアム
まちかど家庭科室～ふらっと～②	10月23日	おあしす市場
まちかど家庭科室～ふらっと～③	11月3日	いとまちマルシェ
まちかど家庭科室～ふらっと～④ (小松文化祭)	11月13日	小松公民館
まちかど家庭科室～ふらっと～⑤ (小松高校中学生見学会)	12月5日	小松高校
まちかど家庭科室～ふらっと～⑥ (未来塾&こども食堂)	9月～12月	小松公民館

2 研究の内容

(1) まちかど家庭科室～ふらっと～① (FC今治)

ア 期日 令和3年6月20日(日)

イ 場所 ありがとうサービス夢スタジアム

ウ 目的

近隣地域のイベントで、椿のクッキーの配布、椿をモチーフにしたゲームなどのイベントを実施し、周辺地域での椿文化の普及と多世代交流を図る。



エ 実施内容

(ア) イベント企画

今年度の最初の課題研究で、昨年度までの活動の振り返り、昨年度までの活動を生かして今年何をやりたいかの企画を行い、一覧にした(図12)。その一覧を基に、FC今治のホームゲームでのイベントブースで何をしたいか企画書を制作した(図13)。

課題研究 昨年の振り返り・今年の企画

3年4組()番氏名()4/20(火)

・昨年度までの活動を振り返ってみよう(例)

椿(「小松町を椿で盛り上げたい」「千年の森にもっと人が来てほしい」)

・椿の水引細工
→マグネットやクリップに加工
→椿の種と一緒に地域(子育て支援センター・公民館・椿温泉・図書館)に配布
・椿の消しゴムハンコ
→メモ用紙に加工→地域に配布・職員室のメモ等で使用
魚食(「地域に魚食文化を広めたい」「県産の魚をもっと食べてほしい」)

・魚食レシピ
→子ども達もって魚を好きになるようなレシピを考案→学校給食で提供・魚食について説明(幼児にはエプロンシアターでお魚のお話をして観んでもらう)

ほだか妻(「ほだか妻の良さを知ったり、活用方法を考えて、もっとたべてもらいたい」)

・小さくコロコロクッキーの制作
・伊予農業高校との交流

その他 パッケージデザインの講義・商品の企画・・・

最終年度になる今年、今までの活動を生かして何をしたいか考えてみよう。


- 何かを作り、販売したい!
【何を?】 【どこで?】
- いろいろな人と交流したい!
【どこで?】 【誰と?】
- 伝統文化を学びたい!
【どこで?】 【何を?】
- 地域でのイベントとは?
【どんなイベント?】
- この活動を知ってもらうためにどんな方法がある?
【どんな方法?】

椿の水引、消しゴムハンコ、染色、ネームタグ、昨年度にやっていたことを活用しよう。地域に広げるために「何を、どこで、どうしたいか」を考えよう。

3の4 地域活動事業	企画	令和3年4月20日
1	学校訪問	中学校にも訪問に行きたい
2	魚食	魚種で愛の輪をもっと学びたい
3		魚料理の販売
4		魚種と魚を使ったオリジナルメニュー
5		椿シヤムの販売
6		チームタグの体験と作り付け
7		椿の種と交流のイベント
8		椿シヤムを1円につめる
9		「スゴム」椿
10		マカロンの販売
11		椿餅の制作
12		平年の森の森
13		【伝統を色くしたり、手すりなど「リアフリー」に、体験できるところを作る】
14		丹原高校餅料と交流したい(椿と餅)
15		松山で椿の水引を配布
16		丹原高校の餅(餅と椿)(多向と椿)とのコラボ
17		椿の漬物を作って、オアシスで販売
18		ほだか妻の法蓮子販売(マフィン、クッキー、カップケーキ)
19		ほだか妻で使った和菓子+椿シヤム
20		伊予農からバスタの作り方を教えてもらう
21		ほだか妻のクッキー販売
22		愛媛に来たアーティストと一緒にクッキーを作る→TV放送
23		保育園児とクッキー作りをやりたい
24		最新形の舟とほだか妻を使った和菓子作りをやりたい
25		【ホットケーキ、クレープ、クレープの中に椿シヤムを入れる】
26		ほだか妻の「心」を学校の購買で販売
27		うちんの商品化
28		ほだか妻と魚を使ったおやつ(バーガー)
29		春川のうちん学校へ行きたい
30		商品開発の研修
31		高校生リストラン
32		高校との交流
33		CMを作って放送(小松高校を知ってもらおう)
34		市内5高校と交流会(西条市のみんなと集まる)
35		1日限定のリストラン(料理をふるまいたい)
36		バスケやフットボールを体験できる
37		商品開発をしている学校行事での、販売
38		東京アンテナショップで販売
39		西条、西条農、丹原高校と農産品交流する機会が欲しい
40		椿が1番売れるとの交流(Visee)
41		丹原高校(小松の発表をする(3年同士が))
42		石中との交流
43		愛媛たちと一緒に椿を届けたい
44		小松小学校との交流
45		小松高校リストラン

図12 昨年の振り返り・今年の企画シートとそのまとめ

3の4 地域協働事業 イベント企画			令和3年4月27日
分野	内容	景品・商品	
1	スタンプラリー × 景品交換	椿キーホルダー・椿ハンコメモ	
2	小松町のクイズ × 景品交換 × ガチャガチャ (景品内容)	椿ストラップ	
3	サッカーボールのゲーム 洗濯力コロごみ箱 × アンケート		
4	サッカーボールのゲーム×クイズ (正解のパケツにゴール)	椿千年の森のマップ・クッキー	
5	ピンゴ	コロコロクッキー	
6	椿クイズ (名前や絵合わせ)		
7	輪投げゲーム	バスボム・水引	
8	魚釣り (景品を釣る)		
9	会場内に隠れようせい君を見つける		
10	P.Kなどボールをけてシュート	クッキー	
11	アイス×はだか妻クッキー×カップにインスタグラムのQRコード		
12	はだか妻のフロランタン		
13	椿のストラップ入り景品		
14	魚のフライ×竹串に椿の水引		
15	はつたい巻のジェラード		
16	アイスクリーム × 椿ジャム		
17	椿の水引 ストラップやおしり		
18	椿や魚の体験		
19	ようせいくんの着ぐるみ		
20	SNSに#小松高校ライフデザイン など載せてくれたプレゼント		
21	顔はめパネル ようせいくん	ピザの試食	
22	染物体験		
23	魚の触れ合い体験 (生きた魚に触れてみる)		
24	フォトスポット (写真撮影したら景品)		
25	うちわに椿のハンゴで装飾		
26	アンケート × クッキー		
27	アンケート × バスボム		
28	その他		
29	オリジナルソングを作っておける (ダンス)		
30	はだか妻のパネル (栄養やレシピ)		
31	大きな目玉台に色んな色の水引を振り合わせて、小松に関する絵を作る。		

イベントタイトル	小松の花「椿」を伝へよう		
イベントの趣旨	小松市・小松区・小松市観光協会 観光協会等		
景品	イベントに関連しておきたい景品は何か? (景品の種類や数量)	ターゲット(A)	小松市・小松区・小松市観光協会 観光協会等
景品の内容	景品の内容: プラスのイラストなど書いておきましょう!		
内容	椿に関連するクイズを出して、正解したらバケツにボールを入れたらもう正解した方に椿クッキーをプレゼント。 例: 椿の花はどれでしょう。 		
こだわった部分	椿も動かしながら、椿のことを学べるように。		
ゴール	【どうしたらこのイベントは成功すると思われるかを考えてみよう】(成功の要因、実施後、実施後の感想などをつけておきましょう。)		


イベントタイトル	椿のフォトスポット		
イベントの趣旨	小松市・小松区・小松市観光協会 観光協会等		
景品	イベントに関連しておきたい景品は何か? (景品の種類や数量)	ターゲット(A)	小松市・小松区・小松市観光協会 観光協会等
景品の内容	景品の内容: プラスのイラストなど書いておきましょう!		
内容	先立りのフォトスポット (写真)。 写真撮影したら景品をプレゼント。 		
こだわった部分	写真撮影したら景品をプレゼント。		
ゴール	【どうしたらこのイベントは成功すると思われるかを考えてみよう】(成功の要因、実施後、実施後の感想などをつけておきましょう。)		

図 13 FC 今治イベント企画書とそのまとめ

(イ) イベント準備 (写真 71)

イベントの準備は課題研究で行った。企画の中から意見の多かったフォトスポット、ゲーム、アンケート、消しゴム判子や水引体験を採用し、班に分かれて準備を行った。椿のクッキーは、生地作り、焼く作業、袋詰めを分担し、合計 200 枚準備した。振り返りシートでは、準備の段取りについての反省や、次回の計画など具体的に記入するよう声掛けを行った。班ごとに計画的に作業を行うことができた。ゲーム班は、体験する年齢を想定してルールを考えたり、高さの調節を行ったりしていた。ポップや飾り付けを担当した班は、「見たときに引き込まれるような配色を心掛けた」など具体的にターゲットを想定した準備を行うことができていた。また、企画書には「少しでも喜んでもらいたい」といった意見が多く意欲的に活動を行っていた。



写真 71 イベント準備

(ロ) イベント当日 (写真 72)

① フォトスポット

小松高校のようせいくんがFC今治のユニフォームを着たパネルと、顔はめパネルを持参した。イベントブースに賑わいがあった。

② アンケート (写真 72)

小松町や西条市についてのアンケート調査を実施した。回答者には、椿のクッキーをプレゼントしたということもあり、たくさんの方が参加し、行列になっていた。



写真 72 アンケートとフォトスポット

③ ゲーム（椿釣りゲームと輪投げ）（写真73）

椿釣りゲームは、体験の様子を見て、年齢や能力に合わせて、釣り竿の長さやゲーム時間を変更するなど、臨機応変に対応していた。子ども連れの方も多く、ゲーム開始までの時間たくさんの家族連れが参加した。



写真73 椿釣りゲーム

④ 消しゴム判子体験（写真74）

昨年度制作した椿の消しゴム判子で、オリジナルのはがきを作る体験ブースを作った。参加者は4名ほどであったが、生徒たちは丁寧に声掛けをしたり、作業しやすいように机を整えたりすることができた。



写真74 消しゴム判子体験

(エ) 生徒の感想

- ・小松は椿が有名なので、椿を緑の背景にかわいく書きました。みんなに楽しんでもらいたい一心で、Instagramのアイコンをイメージしたものも作りました。みんなで協力して型取ったり、色を塗ったりしてできたのでよかったです。みんなで考えたものが形になって、それをもらってくれた方が喜んでくれたのが嬉しかったです。
- ・景品作りをしました。人の手に渡るものなので、丁寧に仕上げました。今まで小物は、小松町とただけだったので、市外でのイベントで景品として配れてよかったです。
- ・どうやったら小さい子が楽しくゲームを楽しんでもらえるか悩みました。魚釣りのサッカーボールをフェルトで作ったり、輪投げの輪が投げやすいようにしたり小さい子でも楽しめるような物をつくりました。時間はあまりなかったけどいい感じにできたのでよかったです。
- ・喜んでもらえるように笑顔で頑張った。
- ・アンケートを答えるために呼び掛けをした時に無視されたこともあったけど、ほとんどの人が気軽にアンケートに答えてくれて嬉しかったです。ゲームも小さい子がいっぱいしてくれて楽しそうにしている姿をみて頑張って作ってよかったと思いました。

オ 成果と課題

「ふらっと」に向けて、3年生が3年間に身に付けた技術や学びを生かしたイベント準備を行うことができた。班ごとに、反省や次回の計画を入れることで、効率的に活動を行うことができていた。また、担当班は各自で選択したため、得意分野を生かした活動となった。イベント当日は、机の配置や呼び掛けの方法など、生徒たちが工夫しながら進めることができた。また、初めての西条市以外での「ふらっと」だったため、小松高校を知らない方も多かった。様々な方が足を止めて、小松高校の活動や小松町の椿について話をすることができた。

(2) まちかど家庭科室～ふらっと～② (おあしす市場)

ア 期日 令和3年10月23日(土)

イ 場所 アウトドアオアシス石鎚 (おあしす市場)

ウ 目的

高速道路からも立ち寄ることができるハイウェイオアシスで、椿をモチーフにしたゲームや水引細工体験などのイベントを実施し、小松地域を訪れた方に椿文化の普及を図る。また、様々な世代の方との交流の機会とする。

エ 実施内容 (写真 75)

(ア) 椿の水引細工

水引細工のあわび結びや梅結びの体験ブースを設置した。ホームページの告知を見た中学生と保護者の方など、ライフデザイン科に興味を持った方が多く参加した。生徒たちも最初は不安げだったが、実物を見せながら丁寧に説明を行っていた。また、中学生には小松高校のライフデザイン科のよさを積極的にアピールしていた。完成した椿の水引細工は、マグネットに付けて持ち帰ってもらった。

(イ) ゲーム (椿の輪投げ・椿釣り)

おあしす市場の横に公園があり、親子連れが多く参加してくれた。また、前回のイベントで景品があった方がよいという意見があり、生徒たちは事前に椿の折り紙のメダルを作り、ゲームに参加した子どもたちに配布した。中には、2回、3回と遊びに来てくれる子どもたちもあり、生徒たちも交流を深めていた。また、1歳から小学生まで幅広い年齢の子どもたちが同じゲームで遊ぶため、距離や道具をうまく調整していた。

(ウ) 生徒の感想

- ・参加した人に喜んでもらえるようにと思って活動した。
- ・子どもたちには声を掛けられたけど、大人の人にはあまり声を掛けられなかったので、できるだけ平等に声を掛けて、いろいろな年齢の人を楽しませられるようにしたいです。
- ・常に笑顔とあいさつを頑張りました。私は人に教えるのが得意ではないので、先輩や先生に助けをもらいながらしかできませんでした。ちゃんと人に教えられたいくらいまで練習します。小さい子には水引は難しかったので、もっと簡単な結び方があればいいと思いました。



写真 75 実施状況

(3) まちかど家庭科室～ふらっと～③

ア 期日 令和3年11月3日(水)

イ 場所 いとまちマルシェ

ウ 目的

西条市のいとまちマルシェにて、椿の消しゴム判子や水引細工づくり体験を実施し、椿文化の普及と多世代交流を図る。

エ 実施内容

(ア) 椿の消しゴム判子、水引細工づくり体験

椿の消しゴム判子を使って、オリジナルはがきを作るコーナーや椿の花の水引細工を作るコーナーを設置し、ふらっと立ち寄れるようブースを設置した。観光客も立ち寄る場所で、地域の方のみならず遠方の方にも広く椿文化の普及活動を行った。中には、本校のホームページで今回のイベントを知り、進路選択に当たり、本校ライフデザイン科のことが知りたくて参加された中学生や保護者の方もおり、会話が弾んだ(写真76)。

(イ) 児童文化財を用いた幼児との触れ合い活動

授業中に制作した椿の花のマスコットをつりあげるゲームや輪投げのコーナーを設置し、幼児との触れ合い活動を行った。景品に、折り紙で作った椿の花のメダルを掛けてあげると、子どもたちはみんなとても喜んでくれた。生徒たちは、子どもたちが盛り上がるよう声掛けをしたり、「ゲームしませんか?」と大きな声で呼び掛けをしたりと終始楽しそうに活動していた(写真77)。

オ 成果と課題

消しゴム判子と水引細工づくり体験では、授業中に習得した技術を生かした交流活動ができた。また、ゲームコーナーでも保育の授業の学習を生かし、幼児とのスムーズな触れ合い活動ができた。事前の準備から、体験の説明、ゲームの運営、後片付け等慣れない中で手際よく活動に取り組む姿が印象的であった。体験の時間がとれない方には、本校ライフデザイン科のホームページにリンクするQRコードのちらしを入れたポストカードを配布することで、普及活動につなげることができたのではないかなと思う。

今後は、どのような普及活動ができるかを自分たちで考え、企画・運営していける力も身に付けさせたいと思う(写真78)。

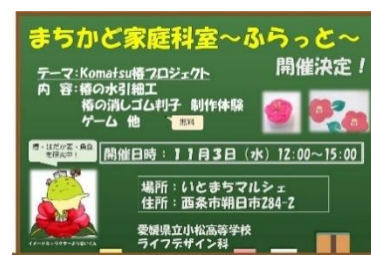


写真76 活動の様子(水引細工)



写真77 活動の様子(ゲーム)



写真78 参加者全員で

(4) まちかど家庭科室～ふらっと～④

ア 期日 令和3年11月13日(土)

イ 場所 小松公民館

ウ 目的

小松文化祭にて、活動成果の展示や椿のクッキー販売、椿の消しゴム判子体験を実施し、椿文化の普及と多世代交流を図る。

エ 実施内容

(ア) 椿のクッキー販売

椿のクッキーの生地作りは食物部が担当し、焼く作業と袋詰めは、ライフデザイン科2年生が担当した。合計300枚作った(写真79)。

小松文化祭当日は、1袋100円で販売し、1時間で売り切れるほど大好評であった(写真80)。

(イ) 椿の消しゴム判子体験

地域の方々にふらっと立ち寄っていただけるコーナーとして、椿の消しゴム判子を使ったオリジナルはがき作りを設置した。子どもから高齢者まで幅広い年代の方々に来ていただき、椿文化の普及と交流を図った。小松つばき会の方も来てくださり、椿に関する会話も弾んだ(写真81)。

(ウ) 活動成果の展示

小松公民館の一角に、活動展示コーナーを設置した。1年生が制作した椿カレンダーや椿の小物類を展示し、椿文化の普及を図った(写真82)。

オ 成果と課題

クッキー販売と消しゴム判子コーナーは、準備と運営に初めて参加する生徒が多かったが、準備から販売、体験の説明等も丁寧に分かりやすくできていた。地域の方々と穏やかに接することができており、生徒たちの自信にもつながった。体験者の中には構図を変えながらオリジナルはがきを何枚も制作している方もおり、好評であった。



写真79 クッキー作り



写真80 クッキー販売



写真81 椿の消しゴム判子体験



写真82 活動展示コーナー

(5) まちかど家庭科室～ふらっと～⑤

ア 期日 令和3年12月5日(日)

イ 場所 愛媛県立小松高等学校

ウ 目的

本校が実施した学校見学会にて、活動成果の展示や椿の消しゴム判子体験を実施し、椿文化の普及と中学生との交流を図る。

エ 実施内容(写真83)

(ア) 活動成果の展示

これまでの研究成果をまとめた動画や成果物を展示し、中学生が気軽に見学できるように工夫した。

(イ) 椿の消しゴム判子体験

椿の消しゴム判子を自由に使用して、オリジナルはがきを制作する体験をしてもらった。椿の花や葉の形がそれぞれ違うので、迷いながらも個性あふれる作品に仕上がっていた。制作を進めながら、ライフデザイン科の授業内容や部活動について情報交換をする生徒もいた。

オ 成果と課題

今回のふらっとは、1年生から3年生までの生徒に運営をしてもらった。1・2年生は初めて運営する生徒がいた中でも、3年生がお手本を示し、スムーズに進めることができていた。小松高校やライフデザイン科の魅力を少しでも分かってもらい、入学希望者が増えるとよいと思う。

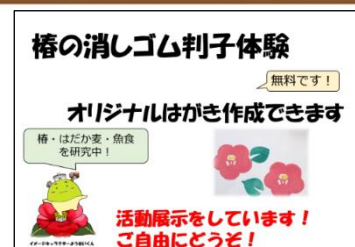
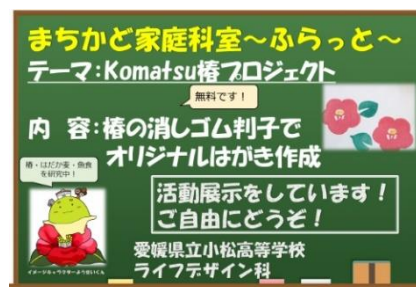


写真83 活動の様子

(6) まちかど家庭科室～ふらっと～⑥

ア 期日 令和3年12月19日(日)

イ 場所 小松公民館

ウ 目的

小松地域未来塾にて、お魚を使った弁当の調理・配布と、椿の水引細工や消しゴム判子作りを実施し、椿文化の普及と多世代交流を図る。

エ 実施内容

(ア) お魚を使ったお弁当メニューの開発講義と試作

お魚を使ったお弁当を開発するに当たり、料理研究家の中村和憲氏を迎え、「おいしい記憶をこどもたちに」というテーマで、日本の食文化や旬の野菜の力など幅広い内容の講義を受けた(写真84)。

その後、小松婦人会の方と一緒に、お弁当の試作と試食を行



写真84 お弁当メニュー開発講義

った。試作した料理は、生徒たちが事前に開発していた 30 品から、中村氏により 5 品を選考してもらった(図 14)。小松地域未来塾当日は 150 食を作る予定となっており、それに向けて大量調理での調理の工夫やポイントをの指導を受けた(写真 85)。お弁当の詰め方もいろいろなパターンを作り、一番食べたいと思う組み合わせを検討した(写真 86)。

【試作した料理】

- ・ブリの照り焼き
- ・サワラの唐揚げ
- ・磯香和え
- ・ひじきと野菜のきんぴら
- ・ブロッコリーの胡麻和え

図 14 試作した料理



写真 85 お弁当試作



写真 86 試作したお弁当

(イ) お魚を使ったお弁当の調理と配布

お弁当の料理は、ブリやサワラだけでなく、海苔やひじきなどの海藻もふんだんに使用し、「海の恵みの魚食弁当」として配布することになった。当日は、小松婦人会の方と一緒に調理した。担当する料理を決め、1 時間 30 分の調理時間で 150 食分を完成させた(写真 87)。



写真 87 お弁当調理

ブリとサワラの 2 種類の魚と海藻、西条市産の野菜をたっぷり入れ栄養満点のお弁当となった(写真 88)。そして、小松地域未来塾に参加した地域の方に配布した(写真 89)。お弁当メニューの開発から試作・調理まで実践することができ、魚食の普及につながる活動となった。お弁当を食べた方からの感想も多くあり、開発した成果があった(図 15)。



写真 88 海の恵みの魚食弁当

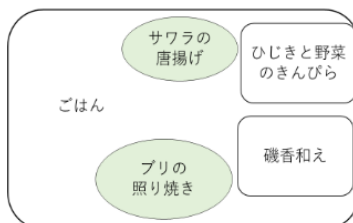


写真 89 お弁当配布

- ・とても美味しく、心のこもったお弁当でした。ブリの照り焼きは魚の味がしっかりしていて良いと思う。唐揚げもしょうがの味付けで臭みもとれておいしかった。磯香和えは、ほうれん草ともやしに海苔が入ることで風味が増していると思います。
- ・すべてのメニューがおいしかったです。特に、ブリの照り焼きはブリに脂ものついていて、とてもおいしかったです。ステキなお弁当をありがとうございました。
- ・お弁当のお魚がとてもおいしかったです。その他のきんぴらごぼうなどのおかずもとてもおいしかったです。ご飯とブリの照り焼きの相性がとてもあっていました。
- ・大変おいしくいただきました。御指導いただいた先生、婦人会の皆様、小松高校ライフデザイン科の生徒の皆様の共同でできたお弁当は格別でした。魚食が一般家庭で減っている話を聞きます。古来からの魚食文化を大切にしていきたいと思います。

図15 お弁当の感想

(ウ) 椿の水引細工と椿の消しゴム判子作り講習会（写真90）

小松地域未来塾では、椿の水引細工と消しゴム判子作り講習会を実施した。地域の小学生から高齢者まで幅広い年代の方々約60名が参加した。生徒は、材料の準備や司会進行をスムーズに行い、作り方の説明なども分かりやすく丁寧に行っていた。多くの方から感想があり、椿に触れる機会を持つことができ、充実した普及活動となった（図16）。



写真90 講習会の様子

- ・すてきな作品をつくることができ良かったです。椿がまた好きになりました。小松は温かい町ですね。
- ・少し難しかったですが、上手に作れて良かったです。説明も分かりやすく楽しかったです。友達ともわいわい楽しくできて、参加して良かったです。ありがとうございました。
- ・とても楽しかったです。自分好みに押せるので最高でした！いい体験ができました。
- ・消しゴム判子に初めて挑戦しました。隣の席の中学生と一緒に楽しく作りました。準備を下さった方々、丁寧に教えていただいた高校生に心から感謝します。ありがとうございました。
- ・水引で小物を作る楽しさをあらためて感じました。椿のことについてもあらためて意識するようになりました。

図16 講習会の感想

オ 成果と課題

今回のふらっとは、魚食と椿文化の普及活動を午前と午後に分けて一日で実施することができ、とても充実した内容だった。特に、初めての試みであった魚食弁当では、生徒が考えた料理を小松婦人会の方と共同開発し、実際に調理・配布までできたことで、生徒たちの意欲の高まりと達成感が見られた。地域の方にも生徒たちの頑張りは伝わっているようで、感謝の声を多数聞くことができた。

II - IV 研究成果の発表・発信

1 第9回高校生ビジネスプラン・グランプリ

- (1) 応募期間 令和3年7月1日(木)～9月29日(水)
- (2) 審査結果 高校生ビジネスプラン・ベスト100(全国353校・3,087プラン中)
- (3) プラン内容

1 ビジネスプランのタイトル

小松 TSUBAKI カフェ「camellia」

2 ビジネスプランの概要

○小松 TSUBAKI カフェ「camellia (カメリア)」

西条市小松町の「椿」に特化したお店で、椿油を使ったお菓子や料理をふるまう「カフェ」と椿を使った小物の販売を行う。月2回、小物製作や料理教室を実施(講師は高校生や地元の方)。

販売商品は、私たちライフデザイン科の高校生が製作。就業体験(インターンシップ)で年間通じて、高校生を受け入れ、西条市の古民家をリノベーションし、歴史的日本家屋を利用する。

○四国遍路おもてなしスペース

お遍路さんの休憩スペースとして、お茶席を設置。愛媛県産新宮村の抹茶でたてたお茶に生菓子や干菓子でおもてなし。

○西条厳選うまいもの自動販売機スペース

椿油の他に、西条市の農産物やお菓子など私たちが厳選したものを、24時間購入できるスペースを設置。

3 ビジネスプランを思いついたきっかけ・目的

私たちが住む愛媛県西条市は、海と平野と山がそろった自然豊かな街で、日本の名水百選に選定された、全国でも珍しい地下水が自噴する「うちぬき水」が有名である。また、工業、農業などの生活産業が発展し、宝島社が発表した2021年版住みたい田舎ベストランキングでは全国1位となるなど、魅力があふれた街である。しかし、人口減少や少子高齢化が加速している課題もある。地元に住む私たち高校生の力でこの魅力を活用して課題を解決し、地域活性化に貢献できないかと考えた。そして、西条市の魅力を日本全国、海外の人たちにも知ってもらいたい。

西条市は、魅力的な地域資源を多く有しているにもかかわらず、その魅力は地元の人にあまり認知されていない。西条市に住む本校生徒へのアンケートでは、西条市について、「西条祭り」や「うちぬき水」は知っていても、本校がある西条市小松町の「椿」について知らないと答える人も多かった。そこで、地域の方々や地元の事業所の方々の協力を得ながら、椿文化の研究を進め、まずは地元の人に魅力を伝えることを実践してきた。現在、私たちが令和元年度から企画、運営した小さなスペース「まちかど家庭科室～ふらっと～」で校外普及活動に取り組んでいるが、場所や時間の制約やコロナの影響があり、今まで行ってきた活動の成果を十分に発揮できていない。地元の認知度を上げるとともに、地域外の方にも情報を発信するためには、校外活動の枠を超えた活動ができるよう環境を整えることが必要である。

その活動場所として、西条市の空き家、それも古民家に着目した。西条市のホームページから「西条市空き家バンク」に登録された売却・賃貸物件が72件。売却済みが45件(R3.9.24現在)あることを知った。このような空き家の中から、歴史的日本家屋(古民家)をリノベーションすることで、和室など広い空間スペースを食事スペースとして、キッチンなどの水回りも充実しており、椿文化の情報発信の場として、有効活用できるのではないかと考えた。最近のスイーツブームを活用し、椿に特化した椿づくしのカフェ「camellia (カメリア)」をオープンすることで、地元の方だけでなく、県外からも観光客が来るのではないかと考えた。椿メニューの他にも、私たちが授業の一環として研究・開発している、西条市の特産品

である魚や野菜・果物などの農産物を使ったオリジナル料理やお菓子を提供する。

また、この古民家の周辺には、四国八十八か所 61 番札所香園寺（こうおんじ）や 62 番札所宝寿寺（ほうじゅじ）があり、四国遍路で立ち寄る外国の方にも、安心して立ち寄れる環境も整備する（「お遍路おもてなしスペース」）ことで、西条市が世界にも認知されるようになり、地域の活性化と魅力化に貢献できると考えた。

西条市は、西条柿やキウイ、アムスメロンやシャインマスカットなどの果物や絹かわなすや里芋（伊予美人）などの野菜、はだか麦の生産量は、県内 1 位である。豊富な農産物があるが、それを購入できるお店は限られており、市内にある JA が経営する物産市も 18:00 で閉店するという現状である。働きながら家事をする方や観光やお遍路などで西条市を訪れた方にとって、購入するチャンスを逃す可能性も高い。そこで、いつでも、手軽に購入できる場所を提供したいと考え、24 時間対応できる「西条厳選うまいもん自動販売機」を思いついた。もちろん、椿油やドレッシング、椿のクッキーなども購入可能である。無人であるためコロナ禍にも対応しており、人件費もかからないというメリットもある。

4 商品・サービス

① 商品・サービスの内容

○椿カフェ「camellia」 ※料理・お菓子の写真は、全てライフデザイン科が作ったものです。

椿メニューの他にも、私たちが授業の一環として研究・開発している、西条市の特産品である魚や野菜・果物などの農産物を使ったオリジナル料理やお菓子を提供する。

営業日：月・火・水・金・土・日（木曜日、第 2、4 火曜定休日）

営業時間：モーニング 7:30～10:30 ランチ 11:00～14:00 カフェ 13:00～16:00

メニュー：【モーニング】 500 円

はだか麦入りパン～椿ジャム & 西条市産フルーツジャムを添えて～（写真 1）、ドリンク

【ランチ】

椿オイルを満喫プレート 1,000 円 ポイント：椿油はオレイン酸の含有（85%）と多く、悪玉コレステロールを抑える働きがある。オリーブ油は 75%（写真 2）

旬の魚のカルパッチョ～椿油とともに～（写真 3）

牛肉と旬の野菜のオイスター炒め～椿油仕立て～

真鯛の天ぷら～椿油揚げ～（写真 4）

ポイント：サクとした感じが保たれ、軽く揚がる。

西条市産はだか麦味噌の味噌汁（写真 5）

地元野菜のサラダ（椿油ドレッシング）

鯛めし・・・愛媛県の郷土料理

デザート

西条満喫ランチ 1,000 円（写真 6）

西条市産季節野菜のピンチョス

西条市産季節野菜のスープ

瀬戸内魚のムニエル

旬の魚のカルパッチョ～椿油とともに～

パン

デザート



写真 1 椿ジャム



写真 3 カルパッチョ



写真 2 椿油



写真 4 天ぷら



写真 5 味噌汁



写真 6 西条満喫ランチ

日替わりランチ 1,000円 (写真7)

西条市産野菜や瀬戸内魚を使った料理・・・私たちライフデザイン科の高校生がレシピを考案する。



はだか麦味噌ピッツァ 魚介たっぷりパエリア 鯛のアクアパッツァ 鯛とエビの仲良し包み 鯛のトマトソース
 鯛の押し寿司 鯛とキャベツのスパゲッティ 西条市産野菜のサラダ-キウイソース- ハモと絹かわなすのはさみフライ
 白身魚ライスバーガー 鯛と里芋のコロッケ 野菜とベーコンのキッシュ はだか麦入りミネストローネ

写真7 私たちが考えたオリジナル料理

【カフェ】：<夏季限定> 椿のかき氷～西条うちぬき水使用 桃とスモモのシロップ～ 600円 (写真8)

<日替わり> フルーツたっぷりデザート 600円・・・私たちライフデザイン科の高校生がレシピを考案 (写真9)。



写真8 椿のかき氷 愛媛県産みかんのタルト 西条市産シャインマスカットといちじくのタルト いちごのパバロア
 西条市産アムスメロンのスポンジケーキ 西条市産桃のタルト フルーツ大福 いちごのパフェ

写真9 フルーツたっぷりのデザート

特徴：カフェで提供するメニューを考案するのは、私たち家庭科の専門学科で学ぶライフデザイン科の高校生。就業体験（インターンシップ）を実施することで、店舗にてお客様と接し、料理のリサーチ、市場調査を行える。お客様の反応を見て、次に提供する料理やスイーツの改良に臨む。販売商品にもつながるので、私たちの研究や活動意欲にもつながり、達成感や充実感を得られる。また、店舗運営や接客などを学ぶことで、卒業後の進路選択の幅が広がる。

○椿の小物販売 (写真10) ※小物の写真は、全てライフデザイン科が作ったものです。

- 椿の水引細工（マグネット、チャーム、ブローチ、御祝儀袋）・・・御祝儀袋は、就労支援施設と共同開発
- 椿の消しゴム判子（葉書、カード）
- 椿のステンシル（コースター、うちわ、エコバック）
- 椿の花で染色：スカーフ



椿のバスボム
 椿の巾着
 椿のコースター



写真10 椿の小物

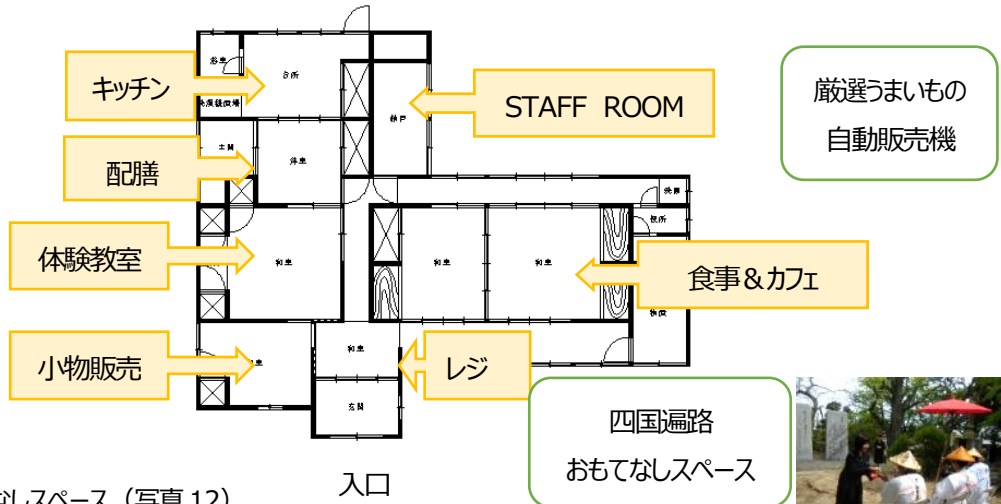
○椿に親しむ体験教室（月2回、10名程度、講師は高校生）

小物：椿の消しゴム判子、水引細工、染色、ステンシル、椿のリース（写真11）

調理：椿ジャム、椿

古民家リノベーション<例>

西条市のホームページ「西条市空き家バンク」に登録された賃貸物件より。住所：西条市新屋敷（本校近隣）



○四国遍路 おもてなしスペース（写真12）

四国遍路で立ち寄る外国の方にも、安心して立ち寄れる環境も整備する。

お茶席（腰掛台6人分）を設け、愛媛県産新宮茶の抹茶をたてる。

生菓子として椿の和菓子を、干菓子として椿のクッキーを提供し、おもてなしをする（写真13）。

→ 西条市が世界にも認知されるようになり、地域の活性化に貢献できる。

○西条厳選うまいもん自販機スペース（5台）

いつでも、手軽に購入できる場所として、自動販売機を設置。

地元特産品や農産物、仕入れた商品を販売し、西条市の活性化を図る。

イチオシ商品（常温）：椿ジャム、椿油ドレッシング、和菓子、パンなど（6種類）

料理（冷凍）：ピザなど（6種類）

野菜：絹かわなす、里芋（伊予美人）など（6種類）

卵：1種類

果物：キウイ、ブルーベリー、柿など（6種類）

→ 無人であるためコロナ禍にも対応しており、人件費もかからないというメリットがある。

② 既存の商品・サービスとの違い、セールスポイント

カフェ：椿をメインに考えた店舗は市内にはない。椿を加工するには季節が限定されること、収穫の手間がかかること、高い技術が必要であり、市内にはその技術を持った企業や飲食店がない状況である。そのため、西条市内唯一である。

自動販売機：地元物産市、産直市は、JA運営が多く、18:00までの営業。ジュースやアイス、卵以外の自動販売機は市内にはない。

カフェ：カフェで提供するメニューを考案したり、椿の小物（水引や巾着など）を製作したりするのは、私たち家庭科の専門



写真11 椿のリース



写真12 おもてなしスペース



写真13 生菓子 干菓子

学科で学ぶライフデザイン科の高校生。就業体験（インターンシップ）を実施することで、店舗にてお客様と接し、料理のリサーチ、市場調査を行える。お客様の反応を見て、次に提供する料理やスイーツの改良が繰り返しできるため、より良い商品を提供できる。

四国遍路おもてなし：札所への途中に設置することで、気軽に立ち寄ることができ、無料でお茶やお菓子をいただける。

自動販売機：24時間対応でき、接客を伴わないので、コロナ禍でも対応できる。

4 顧客（商品・サービスを販売する先）

○想定している顧客（ターゲット）

カフェ：20～30代の女性

四国遍路おもてなし：四国八十八か所を巡礼する外国の方や60代以上の方

自動販売機：働く女性・主婦

具体的な販売（提供）方法、広告方法

○販売方法

カフェ：古民家店舗椿カフェスペースにて販売 四国遍路おもてなし：店舗前にて提供

自動販売機：店舗横に設置

○広告方法

地元情報誌（無料）

SNSにて発信：西条市、小松高校、近隣施設「椿交流館」、「ハイウェイおあしす市場」のホームページ、Instagram等

5 必要な経営資源等（ヒト、モノ、技術・ノウハウ）

《ポイント》 商品・サービスを実現化するためには、どのようなヒト、モノ、技術・ノウハウが必要か考えてみましょう。

（協力機関）愛媛小松つばき会、就労支援施設、西条市内飲食店、漁協、椿ジャム加工会社

（ヒト）農産物生産者、椿を収穫する人、加工する人、調理する人、販売する人（小松高校の生徒も対応）

（モノ）椿油圧搾機（食用）、加工スペース、厨房機器一式

2 ふるさとCM大賞えひめ

(1) 目的

小松町の魅力を県内外の方にもっと知ってもらうために、小松高校と小松町のCMを作成し、ふるさとCM大賞に出品する。

(2) 内容

アピールしたい小松町の魅力をまとめ、絵コンテを記入して、大まかなストーリーとセリフを考えた(図17)。

絵コンテを基に、撮影場所や必要な小道具を考え、タブレット端末と小型ジンバルカメラを使用して撮影を行った(写真91)。

撮影した動画をその場で確認し、生徒同士で話し合いながら撮影を行った(写真92)。30秒という限られた時間の中で、最大限に魅力を伝えたいと工夫する姿が印象的だった。

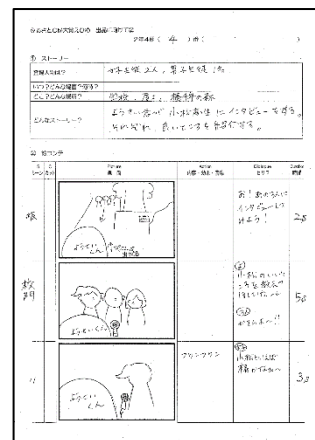


図17 絵コンテ



写真91 話し合いの様子



写真92 撮影の様子



撮影した動画を編集し、テロップや画像を付ける作業では「遠くからも見やすい文字がいい」「この色は目立たないかな」など、生徒同士で話し合いながら行った(写真93)。完成したCMを見て、生徒から拍手が起こり、一つのことをやり遂げた達成感を感じたようだった(写真94)。



写真93 動画編集の様子



写真94 完成した動画

完成したCMは一次審査を通過し、2月に松山市で開催される審査会に参加することになった。作成したCMは3月下旬に放送される予定である。今後も小松町のCMやPR動画を作成し、県内外へ魅力発信を行っていききたい。

3 活動の発信と発表

(1) 南海放送ラジオ

西条市シティプロモーション課から、南海放送ラジオにて、小松高校の学校紹介の依頼を受けた。そこで、椿文化の研究内容と「まちかど家庭科室～ふらっと～」開催の告知等のラジオ収録を行った。2名の生徒が収録に臨み、椿文化の普及を進めることができた（写真95）。

11月1日（月）9時35分から放送された。

(2) 東予信用金庫小松支店

東予信用金庫小松支店にて、約1か月間、「小松TSUBAKIプロジェクト」と題し、椿文化の研究について展示した。訪れる多くの方々の目に留まり、椿文化普及の貴重な機会となった（写真96）。



写真95 ラジオ収録



写真96 活動展示

4 小松小学校教職員研修会

(1) 期日 令和3年8月11日（水）

(2) 場所 小松小学校

(3) 実施内容（写真97）

小松小学校の教職員研修会として、活動成果の発表を実施した。当初は、小松公民館にて小松地域の幼・小・中学校の先生方を対象に行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。そこで、コンソーシアムの構成機関でもある小松小学校の校長先生の御提案により、少人数での発表の機会を得ることができた。

昨年度の活動内容の動画と今年度の活動内容や今後の予定などを発表した。西条市出身の先生方が少なかったため、小松の椿にとっても関心を持っていた。



写真97 発表の様子

5 第31回全国産業教育フェア埼玉大会（リモート開催）

(1) 期日 令和3年10月30日（土）

(2) 場所 小松高校

(3) 実施内容（写真98）

日程：10:30～12:40 インターネット上での動画発表12校

(12:10～12:20 小松高校)

12:45～13:30 オンライン協議



発表内容

写真 98 リモート開催の様子

生活文化の伝承と多世代交流 ―共生のまちづくりに貢献する人材の育成―

愛媛県立小松高等学校 ライフデザイン科

1 事業の概要

本校では、生涯にわたって多様な立場の人や機関と協働しながら、地域課題の解決を目指して主体的に行動し、生活文化の継承や多世代交流、共生のまちづくりに貢献できる人材の育成を目的として、具体的な「身に付けたい力」を掲げ、企業、行政、大学等と連携し、本研究に取り組んできた（図1）。西条市の生活産業・生活文化である魚食・椿・はだか麦に注目し、地域の魅力化、共生のまちづくりにつながる、普及活動や商品開発等、様々な活動を展開している。

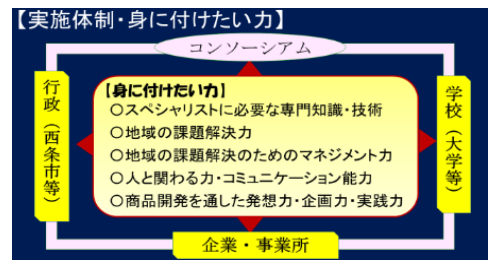


図1 実施体制・身に付けたい力

2 具体的・特徴的な実践内容

(1) 地域課題の発見・解決方法の研究

西条市の産業や歴史を深く知り、地域課題について考えることを目的として、地域課題に関する講義を受講したり、伝統産業研修を行ったりした。研修後、取り組むべき課題について話し合うことで、幅広い視点から課題解決方法を考えるきっかけとなった。

また、町全体で地域の活性化に取り組んでいる県外の地域（徳島県上勝町、兵庫県尼崎市等）を訪れ、現地で行った研修では、西条市を活性化するために、私たちに何ができるかを、具体的に考えるなど、地域の課題解決のためのマネジメント力向上の機会となったと感じている。さらに、これらの活動により、西条市の生活産業・生活文化である椿・魚食・はだか麦などの特産品の研究の必要性を再認識することとなった。

(2) 伝統文化・地域特産品の研究

ア 魚食文化の研究

西条市は瀬戸内海に面しており、ハモ・サワラ・ワタリガニなど、海産物が豊富であることから、魚食文化の普及を目指し、研究を行った。

地元漁協の方の魚食文化の講義を受けることで、魚のおいしさをもっと知ってほしい、子どもたちに魚の魅力を伝えたい、との気持ちが強くなり、より研究に熱が入るようになった（写真1）。本研究で考案した「ハモと絹かわなすの挟みフライ」は「西条市魚を使った高校生料理コンテスト」で最優秀賞を獲得し、市内の飲食店でも提供された。



写真1 講習会

さらに、新型コロナウイルス感染症の影響で行き場を失った、愛媛県産「鯛」の消費拡大につなげようと考案したレシピ「鯛のトマトソース」等が、西条市内の小学校等の給食に採用されるなど、私たちの取組が地域で高く評価されたことは、今後の活動への大きな励みとなった。これらの経験は、発想力・企画力・実践力のほか、

調理に関する専門知識や、魚を三枚におろす等、技術力の向上につながったと感じている。

また、給食として提供された当日には、近隣の小学校等を訪問し、自作したエプロンシアターによる、魚の栄養価の説明等、魚食普及活動を行った（写真2）。考案したメニューを子どもたちがおいしそうに食べる様子を見て、今後は、地域の食材をふんだんに用いた1食分の献立のレシピ作成を目指したいと考えている。



写真2 小学校訪問

イ 椿文化の研究

江戸時代の小松藩において長らく教育に尽くした儒学者、近藤篤山が愛した花である「椿」は、旧小松町の町花であり、西条市は、「椿の香りと文化」をまちづくりの中心に据えている。本校近隣には、椿が多く植えられている施設「椿千年の森」もあり、ぜひ、この椿を、文化として広めたいと思い、研究に取り組んだ。

「椿千年の森」で、椿の実の収穫、品種を記したプレートの装着等、整備に協力することで、もっと観光客が訪れるような場所にしたい、椿は花を楽しむだけでなく、他にも活用できるのではないかと、研究活動への意欲が高まった。

椿の花や葉、枝などを利用して染色し、種と種殻でリースを、花びらでバスボムを、椿油でクッキーを作り、小松町文化祭で販売した。また、伝統産業研修で学習した成果を生かした椿の水引細工のほか、西条市と共同で作成した椿カレンダー、県内東予地区で開催された「えひめさんさん物語うちぬき氷プロジェクト」で優勝した、椿を模したオリジナルかき氷等、幅広い世代に椿を知ってもらえるよう、様々な商品や作品を考案した（写真3）。



写真3 椿のかき氷

今後は、水引細工を活用した御祝儀袋が西条市内の就労支援施設から販売される予定である。これらの活動が椿文化の普及につながり、商品開発にまで広げられたことで、達成感を得るとともに、更なる企画力・実践力の向上につながったと感じている。

ウ はだか麦の研究

はだか麦は、愛媛県が全国で生産量1位であり、西条市は県内でも生産量1位である。特産品であるにもかかわらず、その活用法について、知らないことが多く、はだか麦をもっと知りたい、もっと広めなければ、という思いのもと研究を行った。

県の産業振興課の方によるはだか麦に関する講義を受けることで、はだか麦の特徴を学習し、知識を深めることができた。また、パン作りと味噌を使った発酵食品の講習会を受けることで得た知識を応用し、はだか麦を使ったクッキーのレシピの開発・販売を行った。今後は、地元企業と共同で研究・開発した商品の販売を目指している。

エ 普及活動「まちかど家庭科室～ふらっと～」等

椿文化やはだか麦の普及を目的とした、学校外の施設等で行う多世代交流「まちかど家庭科室～ふらっと～」を、これまで6回実施した。中学校の生徒及びその保護者と実施した、はだか麦の味噌を使ったピザ作りや、小学校で実施した、豚汁作り等では、地域コミュニティの活性化について考える機会となった。



写真4 まちかど家庭科室～ふらっと～

また、隣市の今治市をホームタウンとする、FC今治のホームゲームでは、多世代と交流できるように、椿の消しゴム判子の体験コーナーと、ゲームコーナーを設け、県外から来られた方や幅広い年齢の方と交流し、西条市の文化をアピールすることができた（写真4）。このような普及活動を運営したことで、企画力や段取り力を身に付けることができた。

3 成果と改善の方向性

3年間の研究を通して、地域の魅力や課題について考える学習活動の機会があったと答える生徒が32.3%から83.9%と増加した。その学習活動の機会を得たことで、課題を発見する力を身に付けることができ、課題解決能力が向上したと考える生徒や社会の役に立ちたいと思う生徒も増加したと考えられる。専門性を生かし、地域と関わりながら研究してきた成果であると思う。

また、学校外の企業の方々や地域の方々等と接する機会が増え、人と関わる力・コミュニケーション力と情報を収集する力も身に付いた。そして、研究に関わるすべての人と話し合い、活動や研究した内容をまとめ、発表する力も高まった。

私たちは、活動の中で多くの方と関わりながら、「身に付けたい力」を得るとともに、地域の魅力を発見することができた。そして、そのことが、大きな自信となったと感じている。人とのつながりの大切さを知るとともに、地域に支えられて生活していることを改めて知り、将来は、西条市で働き、暮らしたいと思うようになった(図2)。

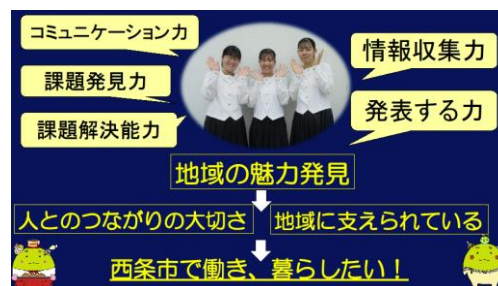


図2研究を通して身に付いた力

今後は、現在の研究活動に加え、四国遍路で来訪される外国人の人や他県の人とも交流して、生活文化の違いを知り、地域産業を知ってもらえる機会をもっと増やしたい。またレシピ集の制作や古民家を活用した特産品の販売等に活動を広げるほか、自分たちが講師となってセミナーを開催するなど、地域の活性化につながる活動を続けていき、将来西条市で働き、暮らしたいと思う人をもっと増やしていきたいと考えている。

6 令和3年度「えひめスーパーハイスクールコンソーシアム in 東予」(オンライン開催)

- (1) 期日 令和4年1月25日(火)
- (2) 場所 小松高校
- (3) 実施内容(写真99)

- 13:30~13:40 開会行事
- 13:40~13:50 オンライン第1部【取組概要の紹介】
- オンライン第2部【ディスカッション】
- 13:55~14:10 ディスカッション①
- 14:15~14:30 ディスカッション②
- 14:35~14:50 ディスカッション③
- 14:50~15:00 閉会行事



写真99 発表の様子

ディスカッションは、本校生徒が司会進行をしながら、参加している学校から質問を受け、それに答えていく形で進められた。普段あまり他校生との交流や意見交換をする機会がないため、たくさんの学校の生徒から感想をいただいたり、生徒同士で意見を交換したりすることができたことは、今後の活動に向けて大変参考になった。また、発表校として会を運営する経験も、生徒たちにとって大変有意義な活動になった。

7 商品開発による成果

「愛媛新聞」2022年（令和4年）2月3日木曜日掲載（図18）



図18 新聞記事

8 成果報告会

- (1) 期日 令和4年2月24日（木）
- (2) 場所 小松高校 視聴覚教室
- (3) 実施内容（写真100）

本事業のコンソーシアム連携機関と運営指導委員の方々に対し、3年間の研究成果を報告した。3年間の活動内容とアンケート結果の報告、事業を終えての感想について発表を行った。その後、参加した方々から感想や今後、後輩に続けて取り組んでほしいと思う活動内容などの質問を受けた。活動展示スペースでは、それぞれのブースで活動内容の報告を積極的に行うことができた。



写真100 発表の様子

9 ホームページ一覧

(1) 「地域協働事業（文科省）」での発信（令和3年2月～令和4年1月掲載分）

学校のホームページには、学校行事や部活動といった、日々の生徒の活動の様子等を紹介している「養正が丘日記」がある。「養正が丘日記」でも本事業の取組について紹介しているが、生徒の活動の様子や研究成果は、特設サイトの「地域協働事業（文科省）」で紹介している。

特設サイトでは、「コンソーシアム・運営指導委員会」「伝統文化継承と特産品開発」「地域課題の発見・解決」「多世代交流と地域の活性化」「先進地域・先進校視察」「成果発表」「活動の様子」の категорияに分け、以下のような記事を、日記スタイルで紹介した。

番号	発信日	タイトル	カテゴリー
1	2月1日	パン実習①	伝統文化継承と特産品開発
2	2月3日	えひめスーパーハイスクールコンソーシアム(オンライン)	成果発表
3	2月12日	「パッケージデザイン」についての講義②	伝統文化継承と特産品開発
4	2月17日	発酵食品 講義	伝統文化継承と特産品開発
5	2月20日	植林活動ボランティア	多世代交流と地域の活性化
6	3月3日	コンソーシアム・運営指導委員会	コンソーシアム検討会議・運営指導委員会
7	3月3日	研究成果発表会	成果発表
8	3月4日	内子町伝統産業視察	伝統文化継承と特産品開発
9	3月4日	大三島に研修に行きました。	先進地域・先進校視察
10	3月8日	椿千年の森 1年ライフデザイン科	地域課題の発見・解決
11	3月8日	2年ライフデザイン科 課題研究 ジャム作り	地域課題の発見・解決
12	4月15日	椿の花びらで染色	伝統文化継承と特産品開発
13	4月19日	椿の花びらでシロップ作り	伝統文化継承と特産品開発
14	4月23日	2年「課題研究」：グループ別研究①	伝統文化継承と特産品開発
15	4月28日	3年「課題研究」：椿の普及に向けて	伝統文化継承と特産品開発
16	5月8日	3年課題研究：椿の普及に向けて～椿の水引マグネット～	伝統文化継承と特産品開発
17	5月28日	校内の椿 「さつま紅」の成長	伝統文化継承と特産品開発
18	6月7日	3年講義「商品開発に向けて～東京で商品売りたい～」	伝統文化継承と特産品開発
19	6月17日	「まちかど家庭科室～ふらっと～」FC今治ホームゲーム出店予定について	伝統文化継承と特産品開発
20	6月22日	椿の普及活動「まちかど家庭科室～ふらっと～」を開催しました！	伝統文化継承と特産品開発
21	6月28日	活動展示発表（第1回コンソーシアム検討会議・運営指導委員会） ※「学校魅力化の取組」に「ミニ活動展示発表会を行いました」というタイトルで紹介。	成果発表
22	7月8日	令和3年度第1回コンソーシアム検討会議・運営指導委員会	コンソーシアム検討会議・運営指導委員会
23	7月12日	地域産業視察【伊予桜井漆器会館編】	伝統文化継承と特産品開発
24	7月20日	商品開発に向けて ～企画書の作成～	伝統文化継承と特産品開発
25	8月11日	活動成果発表会（小松小学校）	成果発表

番号	発信日	タイトル	カテゴリー
26	8月19日	魚をもっと好きになってほしい！魚食文化研究（知育教材①）	伝統文化継承と特産品開発
27	8月25日	魚をもっと好きになってほしい！ 魚食文化研究（知育教材②）	伝統文化継承と特産品開発
28	9月1日	活動展示発表	成果発表
29	9月10日	クリーニングバック③	地域課題の発見・解決
30	9月15日	クリーニングバック④	地域課題の発見・解決
31	9月29日	クリーニングバック⑤	地域課題の発見・解決
32	9月30日	クリーニングバック⑥	地域課題の発見・解決
33	10月7日	クリーニングバック⑦	地域課題の発見・解決
34	10月11日	シーフード料理コンクールに出品	地域課題の発見・解決
35	10月12日	「まちかど家庭科室～ふらっと～」開催決定！ ※西条市シティプロモーション推進課が、LOVE SAIJOのフェイスブックと「えひめのあぶり」に「小松高校生が椿の文化を伝えます」というタイトルで紹介。	成果発表
36	10月18日	3年生から1年生へ伝えよう！「椿の水引細工講習会」	伝統文化継承と特産品開発
37	10月23日	「まちかど家庭科室～ふらっと～」いとまちマルシェにて開催決定！ ※西条市シティプロモーション推進課が、LOVE SAIJOのフェイスブックと「えひめのあぶり」に「小松高校生による椿文化のPR活動はまだまた続きます！！」というタイトルで紹介。	成果発表
38	10月25日	「まちかど家庭科室～ふらっと～」無事終了。 ※「学校魅力化の取組」に「まちかど家庭科室～ふらっと」開催しました」というタイトルで紹介。	成果発表
39	10月26日	文部科学省地域協働事業発表会（産業教育フェア埼玉：オンライン配信）に参加します！	成果発表
40	10月30日	文部科学省地域協働事業発表会（産業教育フェア埼玉：オンライン配信）無事終了しました！ ※「学校魅力化の取組」に「全国産業教育フェア埼玉大会（リモート大会）に参加しました」というタイトルで紹介。	成果発表
41	11月5日	地域協働事業の取組が紹介されました。 ※LOVE SAIJO編集部が、LOVE SAIJOのホームページに「小松高校ライフデザイン科の取組を紹介します！」というタイトルで紹介。	成果発表
42	11月8日	「まちかど家庭科室～ふらっと～」開催しました ※「学校魅力化の取組」に「『まちかど家庭科室～ふらっと～』開催しました」というタイトルで紹介。	活動の様子
43	11月8日	「まちかど家庭科室～ふらっと～」開催決定！	成果発表
44	11月8日	伝統産業視察（高知県視察）に行ってきました！①	先進地域・先進校視察
45	11月9日	伝統産業視察（高知県視察）に行ってきました！②	先進地域・先進校視察
46	11月15日	まちかど家庭科室～ふらっと～開催しました！ ※「学校魅力化の取組」に「『まちかど家庭科室～ふらっと～』開催しました」というタイトルで紹介。	成果発表
47	11月30日	地域産業視察【紙産業技術センター編】	伝統文化継承と特産品開発
48	12月10日	1年「米粉を使ったお菓子」講義	伝統文化継承と特産品開発

番号	発信日	タイトル	カテゴリー
49	12月16日	伝統産業研修（長崎県視察）に行ってきました！①	先進地域・先進校視察
50	12月21日	伝統産業研修（長崎県視察）に行ってきました！②	先進地域・先進校視察
51	12月24日	「海の恵みの魚食弁当」を作りました【小松地域未来塾】	伝統文化継承と特産品開発
52	12月28日	まちかど家庭科室～ふらっと～を開催しました【小松地域未来塾】 ※「学校魅力化の取組」に「『まちかど家庭科室～ふらっと～』開催しました」というタイトルで紹介。	多世代交流と地域活性化
53	1月11日	香椎高校ファッションデザイン科のファッションショーに行ってきました！！	先進地域・先進校視察
54	1月21日	おおさかや 蔵はちさんとの共同開発商品、販売決定！	伝統文化継承と特産品開発
55	1月24日	にぎたつ会館×ライフデザイン科 コラボ弁当	伝統文化継承と特産品開発
56	1月26日	えひめスーパーハイスクールコンソーシアム（オンライン）	成果発表

※「学校魅力化の取組」は、愛媛県教育委員会高校教育課が開設しているホームページサイト。

特設サイトでは、1年次・2年次の研究成果報告書や2年次の研究成果発表会の様子も掲載しており、本事業の取組を時系列的に振り返ったり、研究成果を今後に生かしたりする際の参考することができる（図19）。

The screenshot shows the homepage of the '地域協働事業（文科省）」 website. It features a navigation menu on the left, a main banner for the '令和2年度 研究成果発表会（第2年次）」 (Research Results Presentation Meeting, 2nd Year) with a video player showing a presentation of food items, and a list of past events under the heading '地域協働事業 掲載一覧' (List of Collaborative Activities). The list includes various activities such as '海の恵みの魚食弁当」を作りました【小松地域未来塾】 (Made 'Sea's Blessing Fish Food Bento' [Shimamatsu Local Future Academy]), '伝統産業研修（長崎県視察）に行ってきました！② (12/21)', and '1年「米粉を使ったお菓子」講義 (12/10)'.

図19 「地域協働事業（文科省）」ホームページ画面

今年度は、愛媛県教育委員会高校教育課による「学校魅力化の取組」への投稿に加え、他機関との連携を図り、情報発信の強化にも取り組んだ。具体的には、西条市シティプロモーション推進課と連携し、「LOVE SAIJO」のフェイスブックや「えひめのおぶり」にイベント情報、「LOVE SAIJO」のホームページにライフデザイン科の本事業の取組について紹介していただいた（図20・21）。



図20 「LOVE SAIJO」フェイスブック掲載例



図21 「LOVE SAIJO」ホームページ掲載例

(2) 「養正が丘日記」での発信（令和3年5月～令和4年1月掲載分）

本事業に関する取組の様子を幅広く紹介したい内容については、「養正が丘日記」においても紹介するとともに、特設サイトの記事と同様、愛媛県教育委員会高校教育課が公開している「学校魅力化の取組」のサイトでも紹介した（図22）。

番号	発信日	タイトル	カテゴリー
1	5月14日	ライフデザイン科：地域協働事業 2年課題研究 ※「学校魅力化の取組」に「地域協働事業（文科省指定）： ライフデザイン科」というタイトルで紹介	2年生
2	5月19日	地域協働事業紹介コーナー	活動の様子
3	10月5日	つくりました オリジナルポロシャツ	活動の様子
4	10月23日	まちかど家庭科室～ふらっと～ 開催中！	活動の様子
5	10月25日	出張講義「西条市の麦について」	活動の様子
6	10月27日	ライフデザイン科活動紹介：南海放送ラジオで放送予定！	活動の様子
7	11月13日	本日 小松公民館でやっています	活動の様子
8	1月7日	椿カレンダー展示	活動の様子

※「学校魅力化の取組」は、愛媛県教育委員会高校教育課が開設しているホームページサイト。



図22 「養正が丘日記」掲載例

Ⅲ 研究の成果と今後の方向性

1 研究の成果と評価

(1) 研究の特徴

ア 学習内容の教育課程内における位置付け、教科等横断的な学習とする取組

本事業は、ライフデザイン科対象のプロフェッショナル型事業で、今年度は1・2・3年生が実施学年となっている。また、対象教科は、普通教科「家庭」・専門教科「家庭」で、「課題研究」「生活産業基礎」が主な対象科目である。しかし、実際には、「課題研究」「生活産業基礎」に加え、「家庭総合」「フードデザイン」「子どもの発達と保育」「調理」や学校行事、特別活動である食物部の部活動、課外活動である家庭クラブの活動などを利用し、事業を実施した。また、教科等横断的な学習の取組については、美術Ⅱの授業において、商品開発のためのパッケージデザインやクリーニングバッグに活用し、販売まですることができた。

イ プロフェッショナル型の趣旨に応じた取組

専門的な知識・技術を身に付け地域を支える専門的職業人を育成するため、地域の企業等との連携を図っている。本年度、商品開発としては、就労継続支援B型事業所と椿を使った御祝儀袋の開発、市内事業所や大手コンビニとの県内産農産物を使用した洋菓子の開発を行い、それぞれ販売することができた。多世代交流（まちかど家庭科室～ふらっと～）としては、生徒が講師となって、椿の水引細工や消しゴム判子を作成する講習会を開催したり、市内事業所に出向いて椿の普及活動をしたりすることができた。また、小松地域未来塾では、小松婦人会と共同開発した「海の恵みの魚食弁当」を調理・配布したり、松山市内の事業所と共同開発した弁当を販売したりすることができた。

これらの活動は、「課題研究」や「生活産業基礎」の授業で、外部講師による講演や料理教室を実施して得た基礎的知識を基に、「フードデザイン」や「調理」などの専門科目で応用し、実施することができた。

(2) 成果の普及方法・実績について

ア 研究開発
【椿の消しゴム判子講習会】今治市や、西条市内の事業所や小松公民館において、中学生と地域の方々を対象に講習会を開催し、椿の普及に努めた。
【水引細工講習会】講師を招いて椿の水引細工の講習会を実施し、西条市内の事業所や小松公民館において、中学生と地域の方々を対象に講習会を開催し、椿の普及に努めた。
【椿の御祝儀袋】就労継続支援B型事業所と、水引細工を使った御祝儀袋を共同開発し、販売していただいた。
【クリーニングバッグデザイン】椿を取り入れたデザインで地元事業所のクリーニングバックを作成し、共同商品として販売していただいた。
【魚食弁当開発】魚を使ったオリジナル料理を考案し、小松地域未来塾にて「海の恵みの魚食弁当」として小松婦人会と共同調理し、小学生や中学生、地域の方々に配布した。
イ 地域課題研究
・ 生活文化見学や地域課題学習、先進地視察を通して地域の課題を見つけ、その解決の手段について探究活動を行った。

(3) 目標の成果

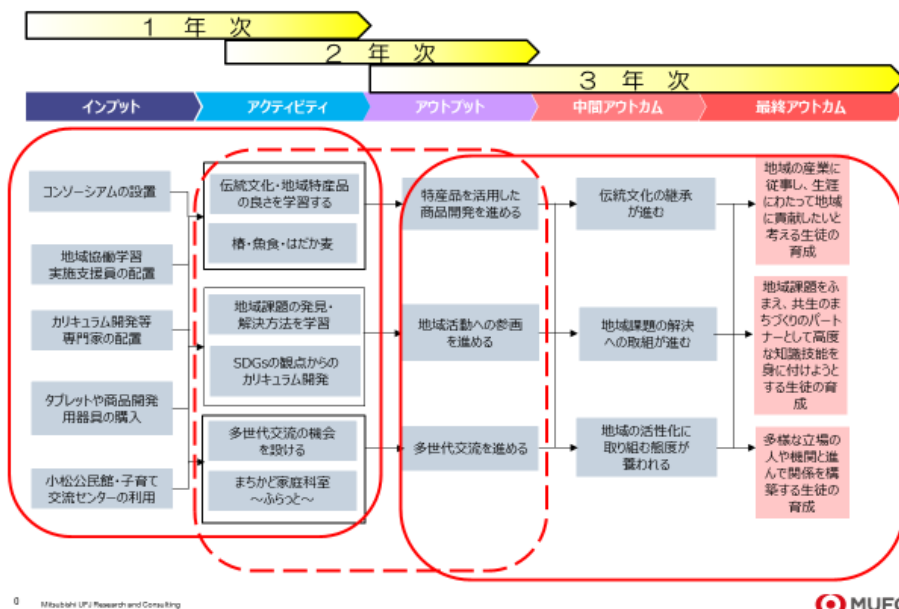
ライフデザイン科1～3年84名

①本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）		
ア 卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標		
目標の内容	目標値	進捗状況
課題研究を通して課題解決能力が向上したと答える生徒の割合	90%	78.7%（12月）
コンクールやコンテストの入選回数	5回	県1回入賞、全国2回入賞
地域社会に役立ちたいと考える生徒の割合	90%	59.3%（12月）
イ 高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標		
就職者のうち地元就職する生徒の割合	85%	88.8%（9名中8名が西条市勤務）
将来地元での就業を希望する生徒の割合	70%	59.3%（12月）
②地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）		
ア 地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標		
目標の内容	目標値	進捗状況
「まちかど家庭科室～ふらっと～」に参加した生徒数	114人	試作・準備・当日合わせて全員が参加
学校外での実践的な学習活動の回数	22回	22回
イ 普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標		
発表会の実施回数	6回	10回
ホームページやライフデザインだよりへの掲載	100回	91回 ホームページ、ライフデザインだより
③地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）		
ア 地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した地域人材を育成する地域としての活動指標		
目標の内容	目標値	進捗状況
地域の機関と連携して実施した活動（講演、料理講習会等）回数	12回	18回
地域課題研究に協働する地域の外部人材の参画状況	12回	10回
テレビ、新聞等、マスコミを通じて活動のアピールを行った回数	4回	広報1回、ラジオ1回、テレビ3回、新聞3回
設定した目標のなかで、「②地域人材を育成する高校としての活動指標」「③地域人材を育成する地域としての活動指標」の項目は、概ね目標を達成できているが、「①本構想において実現する成果目標」の数値は、成果が現れつつあるとは判断できない項目がある。		

(4) 評価

本事業は、設定した数値目標を実現した上で、ロジックモデル（資料1）のように、「地域の産業に従事し、生涯にわたって地域に貢献したいと考える生徒の育成」「地域課題をふまえ、共生のまちづくりのパートナーとして高度な知識技能を身に付けようとする生徒の育成」「地域課題をふまえ、多様な立場の人や機関と進んで関係を構築する生徒の育成」を最終アウトカムとし、3年間のこの事業に取り組んできた。

資料1 ロジックモデル（令和元年度作成したものに今年度追記）

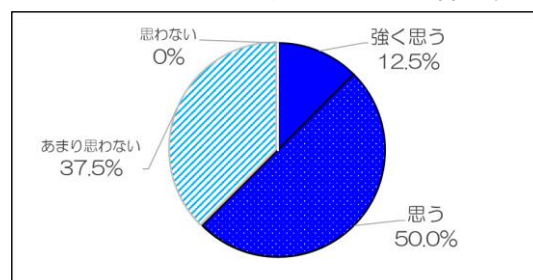


(三菱UFJリサーチ&コンサルティング)

本事業を開始した1年次には、コンソーシアムや支援員などの人材を配置し、地域の課題発見・解決方法や、伝統文化・地域特産品の良さを学習した。2年次には、椿・魚食・はだか麦の研究を進め、多世代交流の機会を設けた。県内の地場産業視察を実施したことで、西条市の地域産業や伝統文化の魅力を改めて知ることができた。3年次には、特産品を活用した商品開発や地域活動への参画を進め、地域の活性化に取り組んだ。また、ポートフォリオを活用することで、地域との協働学習によって得た自分の成長過程を振り返らせることができた。本校ホームページで発信した情報を見たり、開発した商品を購入していただいたりした地域の方々から、高校生の活躍に対して声援をいただいたことで、生徒の自己有用感や行動意欲の高まりも見られた。

「地域の産業に従事し、生涯にわたって地域に貢献したいと考える生徒の育成」について、3年間この事業に関わったライフデザイン科3年生31名にアンケートを実施した。「将来、地元貢献したい(関わりたい)と思うか」(資料2)の問いに対して、62.5%の生徒が「強く思う」と「思う」と答え、郷土愛や地域に貢献したいという思いがあることが分かる。実際、就職希望者9名中8名が西条市の企業に内定、1名が新居浜市の事業所に内定している。業種も、専門学科で学んだことを生かした介護職へ3名、調理へ1名、

資料2 将来、地元貢献したい(関わりたい)と思うか (令和3年12月実施) ライフデザイン科3年31名



接客を伴うサービス業が2名である。進学希望者22名のうち、愛媛県内の学校へ進学する生徒が10名、その他は県外へ進学予定である。生徒の中には、これから西条市や小松町ともに自分たちが発見したこと、研究したことを生かして地域活性化につなげていきたいと感じている生徒もいる。

「多様な立場の人や機関と進んで関係を構築する」について、学習活動（主体性、協働性、探究性、社会性）、学習環境（土壌）など72項目の生徒アンケートを活用し、本事業を3年間実施したライフデザイン科3年31名の変容を分析した。令和2年7月と令和3年12月を比較し、「肯定率の変化が大きい項目」を抽出した（資料3）。「学校外のいろいろな人に話を聞きに行く」が+42.1ポイント、「自主的に調べものや取材を行う」が+35.0ポイントと大幅に増加し、県外研修や県内研修等の事前調査や研修先で事業所の方々に意欲的に質問した成果といえる。また、「活動、学習内容について大人と話し合う」が+33.1ポイント、「立場や役割を超えて協働する機会がある」が+23.3ポイントと増加し、「まちかど家庭科室～ふらっと～」で企画・運営し多世代交流を重ねた事や商品開発で各事業所の方と商品やパッケージデザインのアイデアを出し合ったり、自分の意見を伝えたりできた成果といえる。

資料3 「肯定率の変化が大きい項目」
（上段：令和2年7月実施 下段：令和3年12月実施）
対象：ライフデザイン科3年31名

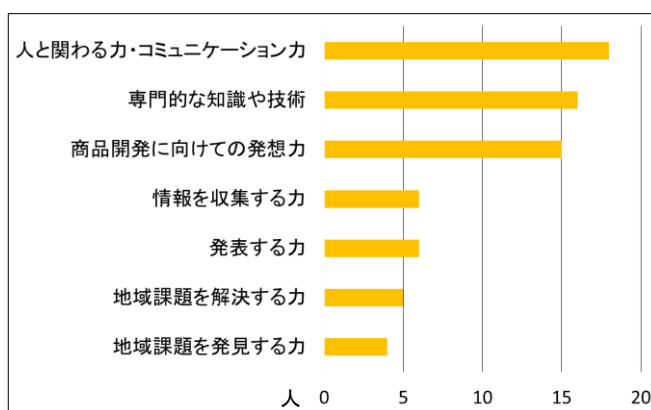
質問項目	肯定率(%) (4点満中のうち「4」「3」と答えた生徒の割合)	比較増減 (%)
q2.学校外のいろいろな人に話を聞きに行く	31.3 73.3	+ 42.1
q1.自主的に調べものや取材を行う	25.0 60.0	+ 35.0
q5.活動、学習内容について大人(教員や地域の大人)と話し合う	46.9 80.0	+ 33.1
q7.話し合った内容をまとめる	53.1 76.7	+ 23.5
q22.立場や役割を超えて協働する機会がある	50.0 73.3	+ 23.3
q21.自分と異なる立場や役割を持つ人との関わりがある	46.9 66.7	+ 19.8
q36.うまくいか分からないことにも意欲的に取り組む	40.6 60.0	+ 19.4
q6.自分の考えを文章や図表にまとめる	31.3 50.0	+ 18.8
q3.グループで協力しながら学習や調べものを行う	68.8 86.7	+ 17.9
q10.地域の魅力や資源について考える	65.6 83.3	+ 17.7
q24.将来のことや実現したいことを話し合える大人がいる	53.1 70.0	+ 16.9
q45.学習を通じて、自分がしたいことが増えている	37.5 53.3	+ 15.8
q46.情報を、勉強したことと関連づけて理解できる	34.4 50.0	+ 15.6
q12.日本や世界の課題の解決方法について考える	28.1 43.3	+ 15.2
q30.自分の暮らす地域を外からの視点で考える機会がある	56.3 70.0	+ 13.8

※グラフ内の数字は、4件法の「4」「3」（4＝よくする／よくある／あてはまる、3＝時々する／時々ある／どちらかといえばあてはまる）の回答割合肯定率を示す。

「地域課題をふまえ、共生のまちづくりのパートナーとして高度な知識技能を身に付ける」について、本事業で身に付いたと思う力について、3年生31名を対象にアンケートを実施した（資料4）。

「人と関わる力・コミュニケーション力」と答えた生徒が半数以上を占め、地域の様々な世代の方と地域課題について話し合い、意見を交換することでコミュニケーション能力が身に付き、相手が伝えたいことを理解しようと努力するようになった生徒もいた。また、「自分に自信がなく、否定されると投げ出していたけど、人とうまくかわることで認められるし、自分にも自信が持てる気がした。これからも大切にしたい」と、人と関わることに自信を持つようになった記述もあり、生徒自身が自己の成長に確かな手ごたえを感じていることが分かる（資料5）。

資料4 「本事業で身に付いたと思う力は？」複数回答可
（令和3年12月実施）
ライフデザイン科3年31名



また、ライフデザイン科である専門学科の特色を生かして研究を進めたことで、「専門的な知識や技術」「商品開発に向けての発想力」を約半数の生徒が身に付いたと感じており、進学の際には、専門性を高めるため、より高度な知識や技能を学びたいと意欲を向上させている生徒が多く見られるようになった。

資料5 本事業に取り組んだ生徒の感想（令和3年12月実施）

- ・地域協働事業に3年間取り組めたことがとても良かったです！ 普段なら学べないことをこの3年間で学びました。将来自分が挑戦してみたい商品開発ではたくさんの工程を通して商品化していく流れを知って出来る楽しさを学びました！ 貴重な体験をすることができて本当に良かったです！
- ・他の高校では学べない地域の良いところや課題、その解決方法などを家庭科の授業を通して学ぶことができた。地域の方々や他県での取組に参加して楽しくかつまじめに取り組めたと思います。
- ・最初は学校では無理やりやらされている感覚があったけど、多くの人と関わり、様々な分野の知識を得られ、自分自身成長できました。もう終わってしまうと考えると寂しいです。今思うとクラスのみなどと話し合って目標に向かって頑張ることはとても楽しかったです。コミュニケーション能力や課題解決力、臨機応変に対応する力など、本当にたくさんのことを学び、身に付けられました。感謝です。
- ・滅多にできない体験をたくさんさせてもらってとても良かったと思ってます。これから西条市、小松町ともに自分たちが発見したこと、研究したことを生かして地域活性化につなげていけるといいなと思います。
- ・ライフに来なかつたら経験できなかった事がたくさん経験できました。地域協働事業での県外研修や県内研修、ボランティアでのFC今治のイベントなどたくさんの思い出ができました。私は人見知りで親しくない人とはあまり喋らないけどライフに来てたくさんの大人たちと喋ったり友達と意見を言ったりしてコミュニケーション力を身に付けることができました。ローソンや蔵はちさんとのコラボ商品など実際に販売されるのがとても楽しみです。ビジネスプランの古民家カフェの意見もベスト100に選ばれてとてもよかったと思いました。地域協働事業以外でも嫌いで苦手意識の多かった被服製作も辛いことの方が多かったけど忍耐力と集中力と努力する事などたくさんの事を学ぶことが出来て、ライフに来てよかったと思いました。ライフじゃなくて普通科だったら今の自分はないんじゃないかなと思います。たくさんの経験ができてほんとによかったです。でも、欲を言うならもっと県外研修に行きたかったと思いました。
- ・普通は経験することが出来ないようなことを3年間の中でたくさん経験することが出来ました。人と話すことが得意ではありませんでしたが、地域の方や研修先で人と話すうちに楽しく話すことが出来るようになりました。また、私たちが住んでいる地域の特産品などにも詳しく知ることが出来て良かったです。
- ・高校生になりこんなにいろいろな経験が出来るとは思っていませんでした。たくさんの活動を通して多くのことを得ることができました。

本事業の目的は、地域の生活産業・生活文化を広め、多世代交流、共生のまちづくりに取り組み、地域に貢献する人材の育成である。課題意識を持ち、生涯にわたって様々な人と協働しながら、地域課題の解決を目指して主体的に行動し、生活文化の継承、生活産業の振興や多世代交流、共生のまちづくりに貢献する地域人材の育成に必要な力は以下のとおりであった。

- 地域で活躍する人材として必要な専門的知識・技術
- 地域の課題発見力・課題解決力

- 地域の課題解決のためのマネジメント力
- 他者と協働し学びを深めるコミュニケーション能力
- 商品開発を通じた発想力・企画力・実践力
- 地域課題研究の成果をまとめ、発表する表現力

このような必要な力を身に付けさせるため、「課題研究」や「生活産業基礎」に加え、「家庭総合」や1・2・3年生履修の専門科目である「フードデザイン」「発達と保育」「子ども文化」「調理」などの授業で取り組めるカリキュラムを開発し、学習指導法や評価方法の研究を重ねてきた。また、外部講師の講義や県内・県外研修、「まちかど家庭科室～ふらっと～」での普及活動を行った。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、10月～12月に講義を集中して入れたり、県内・県外研修の研修先を変更したりして実施した。さらに、松山市内の施設ともオンラインで交流することができ、その時その時に有効な方法を選択して事業の目的が達成できるよう工夫できた。

2 今後の方向性

- (1) 「美術Ⅱ」でロゴマークデザインを入れたクリーニングバックを販売するなど、他教科・科目と連携することで、2年間で学んだ専門的知識や技術を更に向上させ、成果を上げることができた。今後は、3年間のこの事業で得た成果を普通科にも広げるための連携も必要である。
- (2) 本事業の目的の一つであるコンソーシアムとの連携の在り方については、西条市や地域の事業所に加え、地域の飲食店・企業家や地元のスポーツチームといった新たな諸機関との連携を強化し、地域の活性化といった課題解決に取り組むことができた。今後も、将来にわたって継続できる持続可能な事業内容を検討して実施していくことが重要と考える。
- (3) 「課題研究」や専門教科「家庭」以外にも、家庭クラブの活動や特別活動でも「椿文化」や「魚食文化」「はだか麦」についての研究開発を進めていきたいと考える。西条市の魅力を客観的に見つけ、活躍の場を広げるために、四国遍路で来訪される他県や外国の方々との交流を視野に入れた活動についても取り組ませたい。そして、この事業で連携することができた地域コミュニティを絶やさぬよう、生徒たちの発想力や実践力を引き出しながら、地域の活性化につながるような生徒の育成にも取り組んでいきたい。今後、西条市内で活躍している卒業生を外部講師として活用した授業実践にも取り組みたいと考えている。

IV 運営指導委員会記録

1 第1回運営指導委員会（写真101）

(1) 計画・実践と課題について

- ・生徒はよく勉強して研究内容が身に付いている。
- ・今回の発表や展示の準備などを生徒が短時間でできるというのは、すばらしい（写真102）。
- ・生徒たちは質問に的確に答えていた。成長がみられた。1年目とは全然違う。自信がついたのではないだろうか。
- ・おいしそうな料理を考案しているので、レシピを公開するか本にしておくが良い。審査員はホームページを頻繁にチェックしているため、できればホームページに公開するのがよい。
- ・報告書はよくできているが、訴えたいところに下線等で強調してもらおうほうが評価するときに分かりやすい。
- ・企業が必要とする人材は、地域に貢献したいという学生。課題を見つけ、成果をコミットしてそれに見合った行動計画を考え、成果を出せる人材を求めている。以前は、売り上げの数字を見たりもしていたが、現在は結果が残せる人でないと必要ない。多くの企業が採用の段階で「あなたは私の会社にどのような貢献ができるか」を質問する。学生は驚くが、今後は企業に入ってから育成してくれるという社会ではなくなっていく。だから、小松高校のこのような取組はすばらしい。これからは、課題を発見し自分に何ができるかを考えることが必要。誰かがやっていることを見て、同じことをするのではなく、自分の発想が大切。考える力の育成をしているというのは企業から見ると最高の経験をさせていると感じる。



写真101 会議の様子

(2) 発信方法やホームページの工夫について

- ・フェイスブックのライブ配信機能が、コロナ禍で人が呼べないときに、日本全国に発信できたので便利だった。動画はとても効果的である。もちろん変な書き込みをする人もいる。
- ・フェイスブックは40～50代、若い人はインスタグラムの利用が多いため、世代に合わせてつくるのがいい。公式のアカウントをとって管理するとなると、先生方よりも卒業生、同窓会等にとって管理してもらった方がいいのではないか。
- ・この事業で関係している企業や地域の産業、この地域のお土産ものなどについて、ホームページにリンクを貼るのもいいのではないか。今は地元企業を知らない学生が多い。大学などでは外部から来られた人から、学校のお土産や地域のお土産について聞かれることも多い。知ってもらうことや地域活性化につながって欲しい。
- ・商品のPR動画を作ってみてはどうか。私が以前、持続可能な衣生活の授業を他の高校でしたときに、授業を学んでいない人にどう発信するかと投げかけて、PR動画を作ってもらった。いろいろなパターンの動画を上手につくり、高校生発想力に感心した。先ほどの展示場での生徒の説明してくれる様子を見ていると小松高校の生徒も上手に作れるのではないかと。

(3) 今後の活動について

- ・これからは健康、運動、環境がこれからのキーワードになる。SDGsの視点は必須になる。包装材、食品ロス、プラスチックなど課題はたくさんある。そういったことに意識を向けさせるのもよい。

- ・課題解決をするための足掛かりになることを学んでいる生徒なのでいろいろ経験して成長してほしい。
- ・実際に実現できなくても、売り場のディスプレイなども勉強になる。学んだことをアウトプットさせるとよい。就職しても必要になることもある。
- ・アンテナショップでの商品販売の時の売り場のディスプレイを考えさせてもらうのはどうだろうか。そこまでは任せてもらえないというなら年代別などターゲットを仮定して、シミュレーションだけでもやってみるといいのではないか。

(4) 評価方法について

- ・次の代にいかに残していくかを考えなければならない。例えばホームページにレシピなどを掲載する。10年後にそのような内容が残っている、あるいはバージョンアップしている、逆に足りなくなっているなど、後から確認することによって自分たちがやったことが良かったことかどうか、人生経験として残る。後から外から見える記録として残してあげるのが良いのではないか。



写真 102 成果作品展示

2 第2回運営指導委員会（写真 103）

(1) 3年間の取組について

- ・パンやケーキなどが形になったというのは本当に大きな達成感を味わえたのではないか。
- ・1年目会ったときの生徒はとても不安そうだったが、今日の生徒が発表している様子を見ると本当に成長しており、自信を持って自分の考えを述べている。
- ・1年目・2年目・3年目とずっと見てきて、成長していると感じる。何より自分の言葉で表現できている。特に発表を重ねることで自分の自信につながっている。このような活動は今後も続けてほしい。
- ・近隣の学校として見ていて、生徒が3年間でこのように育つものなのかと尊敬する。
- ・大企業のコラボレーションや様々な体験活動も素晴らしい。何より生徒たちの感想に感動した。自分たちのものになっている。質問に即座に答える姿が自信に満ちあふれている。そのような姿を見て、素晴らしい事業だったことがわかる。行政から見てもこのような事業をしていただくことによって、地域の方々も気付かなかったことや知らなかった地域の良さを再発見できたのではないだろうか。今後もこのような活動を続けていただきたい。
- ・3年前、この事業のテーマを伺って難しいと感じた。高校生が地域資源を生かした商品化をすることや共生のまちづくりに貢献したいと思う人材育成に挑戦するのは、3年間でできるのだろうかと思ったのが正直なところであった。しかし、今日の発表を聞いて、生徒が先生の掲げた目標に果敢に挑戦し、課題達成ができていた。



写真 103 会議の様子

- ・昨年までのポスターセッションでは、話しかけるのを待っていたが、今日は自分から話したいという雰囲気や自信を持っていた。生徒が生き生きとして、とても良い表情をしていた（写真 104）。
- ・生徒がメディアに出た時には、SNSでの誹謗中傷を受けないように注意してほしい。

(2) 来年度以降の取組について

- ・四国遍路との交流については、愛媛大学にも四国遍路のセンターがあり、コラボレーションができればいい。
- ・海外の人は自分の町のこと、住んでいる地域の紹介ができたり、「君の町はどんな町」と質問したりすることが多い。答えられないとアイデンティティがないと驚かれる。地元について知ること、伝えられることは大切。地元の名前の由来などを調べたり、地元の事を調べたり学んだりすることが、地元理解につながり新たな発見をすることもあ。さらに、西条市、愛媛県、世界というように広げてほしい。
- ・椿のネームプレートについて、ネームプレートが傷んだら小松高校で修繕するなど、生徒は変わっても継続していただきたい。



写真 104 成果作品展示

- ・成果報告会やポスターセッションを見て、これだけ生徒が動けるのであれば、これで終わるのはもったいない。中学校に出前授業をしてはどうだろうか。
- ・愛媛の自転車文化についても一つのコンセプトになっている。発展性があるのではないだろうか。
- ・これらの活動を普通科にも広げることができるのではないか。ライフデザイン科の活動が、普通科の生徒の刺激になればいい。家庭クラブ活動での活用ができればいい。
- ・他校や障がい者施設などとのコラボレーションができるといい。大学の売店で販売している伊予餅を使ったポーチを例に挙げると、ポーチの刺繍の部分を実験校の生徒が制作している。そのような関わりもできると思う。
- ・来年度は西条市がSDGsの認定を受けている。高校生といかにコラボレーションをするかと言われているため、これはチャンスである。小松高校は普通というイメージから、小松高校はおもしろいと保護者に言ってもらえるようにぜひ、ライフデザイン科でリードして様々な活動を取り入れてほしい。
- ・令和4年度、愛媛大学地域協働センター西条で、SDGs、グリーンイノベーション等に関する入門講座を始めるため、ぜひ先生方に学習していただきたい。
- ・SDGsに関しては高校生ですぐに入れるテーマが多い。現在、買い物時の包材の減量化が注目されているため、捨てなくてよい持ち帰り容器のアイデアを考えるなど、包材の減量化に取り組んではどうか。行政や大人が話をしても聞いてくれないが、高校生が伝えると真剣に聞いてくれるということもある。高校生の取組に効果がある。
- ・SDGsに関して、亀岡市は先進的な取組をしている。参考にされてはどうか。
- ・卒業生のフォローアップ調査をするといい。高校卒業後、地域にどう関わっているか追跡調査をすると、この研究が生きてくる。
- ・卒業生をゲストティーチャーとして招く。文章だけの話よりも生の声で伝わる方が効果的である。
- ・西条市への移住者から、まちの良さを知る機会を設ける。
- ・少子化の中、地元のために役に立つ人材を育てることが重要ではないか。

V 関係資料

1 令和3年度教育課程表

令和3年度 教育課程表

令和3年度入学（家庭科）

愛媛県立小松高等学校（全日制・本校）

区分	学科 コース	ライフデザイン											
		ライフデザイン					ヒューマンサービス						
教科	科目	標準 単位数	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計	学校設定科目		
国語	国語総合	4	5			5	11	5		5		11	
	国語表現	3			2	2				2	2		
	現代文B	4		2	2	4			2	2	4		
地理歴史	世界史A	2	2			2	6	2		2	6		
	日本史A	2			2	2				2		2	
	地理A	2		2		2			2			2	
公民	現代社会	2		2		2	4		2	2	4		
	政治・経済	2			2	2				2		2	
数学	数学I	3	3			3	7	3		3	7		
	数学A	2		2		2			2			2	
	数学研究B	2			2	2				2		2	
理科	科学と人間生活	2	2			2	6	2		2	6		
	化学基礎	2			2	2				2		2	
	生物基礎	2		2		2			2			2	
保健体育	体育	7~8	3	2	2	7	9	3	2	2	7		
	保健	2	1	1		2		1	1		2		
芸術	音楽I	2				0・2	3・5				0・2		
	音楽II	2				0・1					0・1		
	美術I	2	2			0・2		2			0・2		
	美術II	2		1		0・1			1		0・1		
	書道I	2				0・2					0・2		
	書道II	2				0・1					0・1		
	音楽探究	2			※2	0・2				※2	0・2		
美術探究	2			※2	0・2			※2	0・2				
外国語	英語コミュニケーションI	3	3			3	7・9	3		3	7・9		
	英語コミュニケーションII	4		2	2	4			2	2		4	
	英語表現I	2			※2	0・2				※2		0・2	
家庭	家庭総合	4	3			3	3			3	3		
共通教科・科目計			24	16	16・18	56・58	24	16	16・18	56・58			
商業	ビジネス基礎	2~4			※2	0・2	2・4			※2	0・2		
	情報処理	2~6			2	2				2	2		
家庭	生活産業基礎	2	3			3	33	3		3	29		
	課題研究	2~4		2	2	4			2	2		4	
	生活産業情報	2~4		2		2			2			2	
	子どもの発達と保育	2~6		3		3			3			3	
	子ども文化	2~4										2	2
	生活と福祉	2~4		2		2			4			4	
	ファッション造形基礎	2~6	2	2	3	7		2	2			4	
ファッション造形	2~10			△3	0・3			△3	0・3				
ファッションデザイン	2~14			△3	0・3			△3	0・3				
家庭	フードデザイン	2~6	2	2	3	7	2	2		4			
	調理	2~14			△3	0・3			△3	0・3			
福祉	介護福祉基礎	2~8							2	2	4		
	こころとからだの理解	2~10							2	2			
専門教科・科目計			7	15	13・15	35・37	7	15	13・15	35・37			
小計			31	31	31	93	31	31	31	93			
総合的な探究の時間			3~6										
特別活動	ホームルーム活動		1	1	1	3	3	1	1	1	3	3	
合計			32	32	32	96	32	32	32	96			
コース説明			衣食住・家庭などの生活課題について専門学習					高齢者福祉・乳幼児保育について専門学習					
履修学級数			1										
備考			(1・2年) ・芸術は、音楽I・II、美術I・II、書道I・IIから1組を選択履修する。 (3年) ・△印及び※印からそれぞれ1科目を選択履修する。 (注1) 共通教科「情報」は「生活産業情報」で代替する。 (注2) 「総合的な探究の時間」は「課題研究」で代替する。										

2 令和2年度実施報告概要

(1) 令和2年度研究開発の実績

ア 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
科目「課題研究」「生活産業基礎」他における地域での探究学習				1回		1回	2回	1回		1回	2回	1回
外部講師による講義・演習				2回		2回	3回	1回		3回	4回	
校外研修						1回	1回	1回	1回	3回	2回	2回
交流活動				1回	1回	1回						
地域との協働によるコンソーシアムの構築				2回	2回	3回	3回	2回		1回	2回	3回

イ 目標の進捗状況、成果

①本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）		
ア 卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標		
目標の内容	目標値	進捗状況
課題研究を通して課題解決能力が向上したと答える生徒の割合	70%	7月 54.7%、12月 68.15%
コンクールやコンテストの入選回数	周知	市町村レベルでは2回入賞
地域社会に役立ちたいと考える生徒の割合	70%	7月 52.7%、12月 52.1%
イ 高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標		
就職者のうち地元就職する生徒の割合	—	—
将来地元での就業を希望する生徒の割合	50%	1月 34.5%
②地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）		
ア 地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標		
目標の内容	目標値	進捗状況
「まちかど家庭科室～ふらっと～」に参加した生徒数	61人	試作・準備・当日合わせて全員が参加
学校外での実践的な学習活動の回数	10回	14回
イ 普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標		
発表会の実施回数	4回	4回
ホームページやライフデザインだよりへの掲載	80回	62回 ホームページ、ライフデザインだより
③地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）		
ア 地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した地域人材を育成する地域としての活動指標		
目標の内容	目標値	進捗状況
地域の機関と連携して実施した活動（講演、料理講習会等）回数	10回	12回
地域課題研究に協働する地域の外部人材の参画状況	5回	8回
テレビ、新聞等、マスコミを通じて活動のアピールを行った回数	2回	事業の新聞への掲載は、1回
設定した目標のなかで、「②地域人材を育成する高校としての活動指標」「③地域人材を育成する地域としての活動指標」の項目は、概ね目標を達成できているが、「①本構想において実現する成果目標」の数値は、成果が現れつつあるとは判断できない項目がある。		

ウ 評価

「地域の魅力や課題について考える学習の頻度」の変化について、今年度、新型コロナウイルス感染症の影響により、2年生は、地域への普及活動や県外研修が実施できなかったが、外部講師による講義・演習を基にした学校給食メニューの開発といった、校内でも行える取組を充実させたことで、生徒の意識も向上している。1年生は、本格的に研究を始めた時期が6月からであったこともあり、7月時点では、学習活動の充実は感じられていなかったが、「椿千年の森」の清掃活動や外部講師による講義、香川県小豆島への県外研修を実施できたことから、伸び率が高くなっている。

(2) 次年度以降の課題及び改善点

本事業の目的は、地域課題研究を各科目に位置付け、体系的・系統的に学習するカリキュラムの研究を進めることである。本年度は、地域の生活産業・生活文化を知り、地域課題を発見・解決するため、該当科目である「課題研究」「生活産業基礎」に加え、1・2年生履修の科目である「家庭総合」「フードデザイン」「子どもの発達と保育」などの授業の中で、計画的に外部講師の講義や県内・県外研修、地域のイベントや施設を訪問し、普及活動を進めていく計画であった。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で、計画通りに事業を実施できなかった。今後もこのような状況が続くことを想定し、製作した作品などをプレゼントしたり、オンラインでの交流活動を進めたり、有効な方法を模索して、事業の目的が達成できるよう工夫しながら、計画的に事業を実施できるよう、教科等横断的な視点でカリキュラム・マネジメントを進めたい。

1年生は、椿・魚食・はだか麦など地域の生活産業・生活文化について基礎的な知識・技能を身に付けた。2年生は、昨年度身に付けた基礎的な知識・技能を基にさらに活動の場、活動内容を広げ、椿の小物制作による普及活動、学校給食メニューの開発と幼稚園や小学校との交流、商品開発に向けての取組などを行った。今後は、椿・魚食・はだか麦についての知識・技能を生かした商品開発とともに、県や全国レベルのコンテストへの挑戦、生徒が企画から関わる形での多世代交流の実施などを目指したい。

昨年度の課題であった他教科・科目と連携を図り、学校全体での研究開発体制を構築するため、全教員を対象としたワークショップを実施した。他教科・科目で、本事業と関連させた授業を実施する方策を協議した結果、「数学A」と「美術I」でロゴマークデザインに関連する内容を実施することとなり、より専門的な知識や技術の向上を図る授業を実践することができた。

高度な知識・技能を身に付け、多様な立場の人や機関と関係を構築しつつ、地域に貢献したいと考える生徒を育成することが、本事業の目標の一つである。そのため、生徒の現状をアンケートで把握するだけでなく、今まで実施した事業についての感想や事業を発展させるためには何をすべきか等、振り返りシートに書かれた内容や、必要に応じて個別に聞き取りを行うなど、細かく情報収集することが必要である。

コンソーシアムとの連携の在り方についての研究も本事業の目的の一つである。研究開発の成果を広め、地域の活性化を図るためには、現在コンソーシアムを構成する諸機関や、地域の飲食店・企業家・スポーツチーム他の官民の新たな諸機関との連携を模索していくことが重要である。その中で、将来にわたって継続できる持続可能な事業内容を検討して重点的に実施していくことが重要と考える。

研究成果の発信方法は、本年度もホームページが中心であったが、活動内容の動画を作成し、配信することができた。今後もマスコミの活用に加え、インスタグラムなどのSNSの利用等も進めたい。

発行日 令和4年3月

発行者 愛媛県立小松高等学校

〒799-1101

愛媛県西条市小松町新屋敷乙42番地1

TEL (0898) 72-2731

FAX (0898) 72-3669

編集者 愛媛県立小松高等学校 家庭科



小松高校イメージキャラクター
ようせいくん-つばき ver.-